

大阪大学中之島芸術センター

年報

2023-2024

 大阪大学中之島芸術センター



大阪大学中之島芸術センター

年報 2023-2024

 大阪大学中之島芸術センター



センター長挨拶

芸術・アートとは今まで見たことのないもの、聞いたこともないことを想像・構想する力のことです。人々はそんな力をたよりにして、超越的な存在に祈り、亡くなった者を弔い、世界を再生させてきました。

今、私たちに必要なのは、芸術のこのような力を思い出すことだと思います。芸術を「慰め」や「気晴らし」といった檻から解き放ち、想像力・構想力として捉え直すこと。それを新しい知のあり方と結びつけ、世界が今ある姿だけではないと思直すこと。大阪大学中之島芸術センターの使命は、このようなところにあると信じています。

伊東信宏 (2023-2024年度)

伊東前センター長から中之島芸術センター長を引き継がせていただきました河原源太と申します。大阪大学の源流は、江戸時代中期に大坂の商人が設立した学問所である懐徳堂と江戸時代後期に緒方洪庵が開いた私塾である適塾です。これらの源流に共通するのは、大阪の地に位置し、幕府や藩の学校とは異なり、組織にとらわれず広く町人や若者に開かれた教育の場であったという点です。中之島芸術センターは、これら源流の精神を現代に繋ぎ、大阪中之島の地で広く社会に開かれた芸術創造の場を創出します。本センターへのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

河原源太 (2025年度-)

目次

芸術共創教育部門 …… 03
高度副プログラム「アート・ファシリテーション」 …… 03
芸術社会学共創部門 …… 09
寄託事業、学術協定 …… 09
アート人材育成プログラム「中之島に鮠を放つ」 …… 10
芸術共創研究部門 …… 15
基盤プロジェクトⅠ …… 15
基盤プロジェクトⅡ …… 17
共創芸術プロジェクト …… 20
企画事業 …… 22
年報一覧 …… 39
構成員一覧 …… 50

センター概要

大阪大学中之島芸術センターは、必ずしも芸術を専門としない大学院生・学部生、および社会人が芸術の創造に参画し、そのプロセスをともに体験することを指す「共創芸術」の場です。文化・芸術の集積地である中之島という立地を生かしてこのような「共創芸術」の場を創出し、さらに芸術と既存の学術領域との交差によって、大学における新しい形のプラットフォームを形成することを目指して2023年度から本格的に活動しています。

組織構成

専任教員(2名)、特任研究員(3名)、11の部局から兼任教員(24名)、そして事務局で運営にあたっています(2023年4月時点)。芸術センターには「芸術共創教育部門」「芸術社会学共創部門」「芸術共創研究部門」の三つの部門が置かれ、実務を行います。重要事項の議決は芸術センター会議が行い、これを統括するものとして運営協議会、および学外の諸機関からメンバーを招いて行うアドバイザリー・ボードがあります。



芸術共創教育部門

センターで行われる教育、およびセンターが主導する教育を企画、実施する部門である。

教育に関する企画・調整作業を行なったほか、

大学院博士前期課程の院生を対象とする高度副プログラム「アート・ファシリテーション」(16~18科目)を開設した。

このプログラムでは2023-24年度の2年間で累計34名が履修し、16名が修了した。

またオナー大学院の「アーツ・ペースト・リサーチ」(15科目)を準備し、2025年度から運用を開始している。

また教育部門主催の研究会を企画・準備し、2025年度に実施した。

アーツ・プラクシス演習I-1 「制作演習：天然表現を研ぎ澄ます」

2023年度(春夏学期・木5)

美術や造形行為の専門的な技術や知識がなくとも創造的体験を享受できる課題で、何気ない日常における創造の種を見出す力を身につける。

1)「黒色の物質性」は基礎課題として金属を描く鉛筆“デッサン”だ。鉛筆デッサンを行うとき、色があるのに、モノクロで表現することに違和感を感じることは少なくないだろう。画の中で、黒色が描く物の色にならなければならず、それができるようにするには訓練が必要だ。一方で、鉛筆も鉛でできていて、鉛を紙に乗せれば、金属の質量がそのまま紙に表現されることになる。つまり色の形相と質料の関係を黒色の物質性として転回する。そこで、ひたすら紙を黒く塗り潰す。鉛が鉛筆で研磨されて黒光りしてくる。黒は、不可思議な物性オーラを呈してくる。色をモノ化し、「クロ=金属」を表現するデッサン=写実性(リアリティ)だ。

2)「日常の反復性」では、ビニールバッグに身近なものを詰める、尽くす。あらためて日常を集めてみると、何気ないモノの全体から「わたし」が見えてくる。「わたし」や「生きていること」は、とても主観的で、表すことが難しいが、反復性がある。反復を、尽くすことで量的に還元し、モノ化することができる。しかし反復はコントロールできない。

3)「わたしのグラデーション」は、2)のアドバンスド課題である。捉えどころのない「わたし」や「日常」をモノ化し、そ

- 1… 学生制作物
- 2… ビニールバッグを提げて中之島を散歩する
- 3… 講習会の様子：中央が郡司氏、松本氏
- 4… 講習会の様子
- 5… 講習会の様子



1



2

ここに諧調を見出す。その諧調をたどって、もしかしたら「わたし」の原型が見えてくるかもしれない。これはゲーテの「原型(Urform)」概念を応用した課題だ。

これらは、中之島芸術センターで展示し、アーティストの松本直樹氏（現代美術家）と郡司ペギオ幸夫氏（早稲田大学教授）（両氏はセンター主催事業「天然表現「投錨するアート」展の招待作家）を招いて、講習会を行った。（中村）



3



4



5

アーツ・プラクティス演習I-2 「制作演習：日本美術の写実表現」

2023年度・2024年度（秋冬学期・木5）

本格的な日本画制作を実施した。しかしそれは、日本画を目的としているわけではない。日本画の素材を用いて絵画を描くことで、遠近法とは異なる空間概念を学び、写実性やリアリティとは何かを捉え直すことが目的である。

遠近法とは、画家の描く視点で「こちら側」と「向こう側」という対応関係が規定された空間を示す写実技術である。一方で、古代芸術、とりわけ日本の古画では、これとは全く異なり、むしろ対応関係を脱色させる写実性（リアリティ）がある。これを、中村は「書き割り」の空間表現と称している。この「書き割り」を体験する実践として、金箔を背景に用いた日本画制作を実施した。光の当たり方によって金箔背景が前傾化することで、図が影になる。地と図の関係は互いに肯定し合い、否定し合う。輝きと金属という理念的で物質的な質料と形相の関係さえ展開していくような、肯定・否定の関係が共立しながら無効にされる作用を応用した。（中村）



1



2



3



4



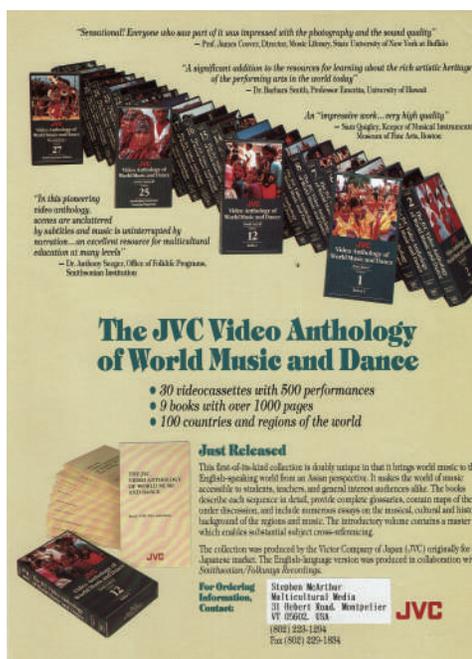
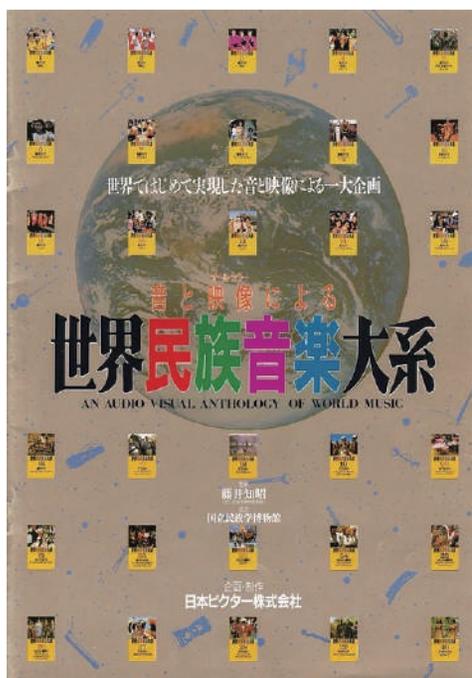
5

「応用音楽学演習」(伝統音楽の記録と音響映像メディア作品)

2023年度・2024年度(秋冬学期・水2)

本演習は、日本ビクターが制作した世界初の音響映像アンソロジー『音と映像による世界民族音楽大系』(全30巻、1988年)の各巻を学生がそれぞれ解題・分析するというもの。2023年度・2024年度とも学期の冒頭で、本アンソロジーの制作者のひとりである市橋雄二氏(公益財団法人日本伝統文化振興財団理事長・元日本ビクタープロデューサー)に芸術センターへお越し頂き、一般講演会を開催した。

2023年度は、「映像メディアによる「民族音楽」アンソロジーの試み～『音と映像による世界民族音楽大系』の制作現場から」と題して、各巻の世界音楽の映像を見ながら制作背景をお話し頂いた。2024年度は、「映像による民族音楽コレクションの制作現場から～アーカイブを伝えるとは」と題して、同アンソロジーとその後のすべてのコレクションについて語って頂いたのち、今後のアーカイブについて方針(例えばSpotifyなど)をご紹介頂いた。取り上げた作品は以下の通り。『音と映像による世界民族音楽大系』(ビデオ全30巻、1988)、『音と映像と文字による大系 日本歴史と芸能』(ビデオ&ブック全14巻、1990)、『The JVC Video Anthology of World Music and Dance』(英語版、ビデオ全30巻、1990)、『音と映像による日本古典芸能大系』(ビデオ全20巻、1991)、『地球の音楽～フィールドワーカーによる音の民族誌』(CD全80巻、1992)、『音と映像による新・世界民族音楽大系』(ビデオ全30巻、1994)、『音と映像による中国55少数民族民間伝統芸能大系』(ビデオ全40巻、1997)(鈴木)



『音と映像による世界民族音楽大系』フライヤー

実践音楽学演習 パフォーマンスを実践する

2024年度(秋冬学期・金2)

当該授業では、音楽学の基礎的な事項などを学ぶとともに、映像視聴とディスカッション、新作の実演への取り組み、楽器演奏、ダンス実習、などを行った。楽器学の概説を通して楽器分類法についての知識を深め、音楽学・民族音楽学の基礎的な理論を学んだ。

映像視聴とディスカッションにおいては、戦後ハンガリーの現代音楽を扱った『妨げられることなく』(日本学術振興会特別研究員として阪大に在籍している中原裕介氏のご助力を得た)、そしてタイ映画『風の前奏曲』の視聴を通して音楽と社会との関わりについての知見を深めた。センター所蔵のガムラン楽器を用いてジャワ人講師の指導の下で演奏の実践を行った。また、新作上演の試みとして、作曲家三輪眞弘氏によるガムラン楽器を用いたアルゴリズムック・コンポジションの作品に取り組み、三輪氏自身の指導を受けながら演奏を行った。ダンスの実践も行い主に歩く動きを通して身体表現の多様性を体験した。履修者は約10名で、各学生は積極的に実践に関わり、最終回での三輪氏の新作上演は、充実したものとなった。(伊東・福岡)



1…三輪眞弘氏の新作上演の試み(2025年1月)

2…ガムラン・ワークショップ:講師とのディスカッション(2024年12月)

3…2024年12月ガムラン・ワークショップ

舞台照明の創造

2023年度秋冬学期

2023年度秋冬学期に「アーツプラクシス演習」科目として、「舞台照明の創造」(担当:永田靖)を、中之島芸術センター3階スタジオを会場に開講した。学期中の全4回、10月7日、10月22日、11月18日、11月25日に、舞台照明の歴史や美学についてのレクチャーに加え、実践的な授業を実施した。ゲスト講師として照明家魚森理恵氏を招聘し、レクチャーと実技を通じて、演劇における舞台照明の意義と基本操作、設営、芸術表現としての舞台照明の可能性を学んだ。また10月22日には、魚森氏が舞台照明を務める中之島芸術センター主催の演劇公演『中之島デリバティブ』の仕込みの研修や観劇も行い、実際の上演での照明の芸術性について体験的に理解した。最終回には照明プランの発表とディスカッションを実施し、創造的思考と実践力を深めた。(永田)

1~4…舞台照明の授業風景



1



2



3



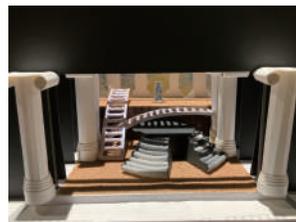
4

セノグラフィー(舞台美術)の創造

2024年度秋冬学期

2024年度秋冬学期に「アーツプラクシス演習」科目として、「セノグラフィー(舞台美術)の創造」(担当:永田靖)を、中之島芸術センター3階スタジオを会場に開講した。学期中の全5回、10月5日、10月19日、10月26日、11月9日、2月8日に、舞台美術の歴史や美学についてのレクチャーに加え、ゲスト講師として舞台美術家堀田充規氏を招聘し、舞台美術の実践的授業を実施した。舞台美術のデザインや制作手法や、ソフォクレス『オイディプス王』を題材に、具体的な舞台美術模型のデザイン制作を行い、舞台空間の設計や劇世界内での意味生成について体験的に探究した。また、並行して開催された中之島芸術センター主催の展覧会及び演劇上演で、戦後関西の舞台美術家のパイオニアの一人『田中照三再発見』(2月8日~9日)の稽古・仕込みも研修し、かつ観劇も行い、実際の展示と上演での舞台美術の可能性を体験的に理解した。(永田)

- 1…学生制作モデル「オイディプス王1」
- 2…学生制作モデル「オイディプス王2」
- 3…学生制作モデル「リズム1」
- 4…学生制作モデル「リズム2」
- 5…「セノグラフィーの創造」授業風景



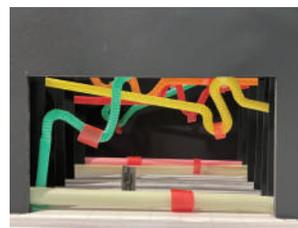
1



2



3



4



5

日本美術史演習Ⅲ-I

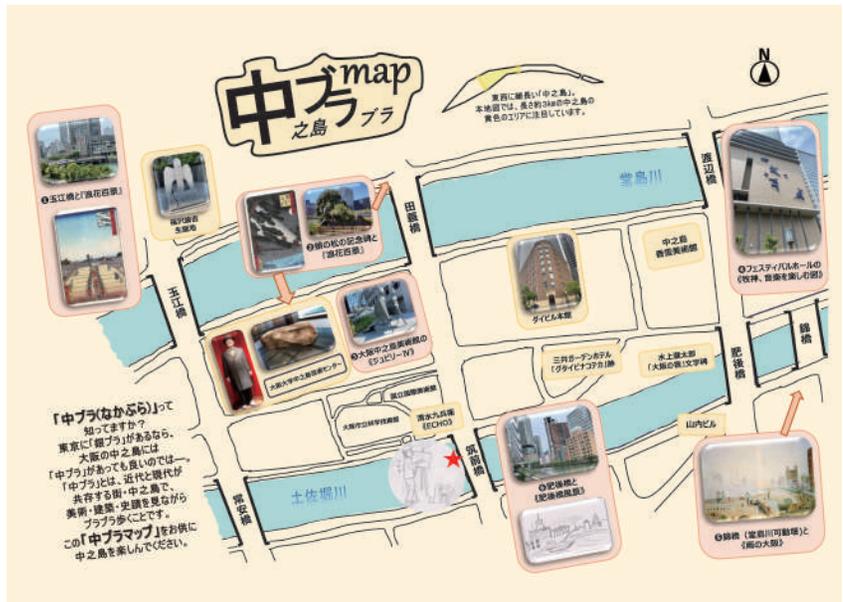
2023年度(春夏学期・木4)

中之島は、江戸時代は諸藩の蔵屋敷が並び、近代には市庁舎や会館、図書館、日本銀行、新聞社などが密集したシビックセンターとして発展した。昭和6年に大阪帝国大学もこの地に誕生している。現在は、大阪中之島美術館、国立国際美術館、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、中之島香雪美術館などミュージアムや、大阪市中央公会堂やフェスティバルホールをはじめホールが集中する“アートアイランド”へと変貌した。大阪大学中之島芸術センターの開設は、本学発祥の地であることだけではなくこの地が、歴史的に芸術関連の文化拠点であったことを再認識させ、芸術が日本社会で重要性を増してきていることを実感させる。

そのことから芸術センターを拠点とする特色ある授業が要求され、美術史を専攻する立場から昭和初期の「大大阪時代」のモダニズムを中心に、中之島の文化施設や近代建築、芸術作品を調べる演習を開講した。

授業は、センターでの講義と施設の見学、受講生が各自のテーマで調べた中之島とその周辺の施設などについての発表を行った。講義では、朝日ビルディングにあった中之島洋画研究所や、昭和12年に大阪市が制作した映画「大大阪観光」ではメディアリテラシーの問題にも触れた。特別見学は、対象を中之島周辺にも広げ、日本銀行大阪支店、大阪市中央公会堂、堂島ビル(小出橋重《街景》の写生地)、川口基督教会、リーガロイヤルホテル(小出橋重《周秋蘭立像》、ホテル内のパイプオルガン調査)などの見学を行った。

受講生には演習発表とレポート提出に加え、中之島の歴史、文化に関するマップの作成を指導し、成果物として印刷されたマップを中之島センターに配架した。(橋爪)



1…中之島プラプラmap
2…堂島ビルディング屋上見学会

芸術社会学共創部門

大阪大学中之島芸術センターの芸術社会学共創部門は、「共創芸術」の理念のもと、大学の研究教育活動と地域・社会を、アートを媒介にして繋ぐハブとして機能する。社会人向け講座や学内の芸術プログラムの企画・運営を担い、また学外の文化機関や企業、行政と連携し、社会的課題（環境・持続可能性など）へのアートのアプローチを実践している。共に学び創る場を通して、学生・社会人が想像力や構想力を養い、社会全体のレジリエンスを高めることを目指すものである。

寄託

1: 盲僧琵琶兵藤コレクション

兵藤裕己氏（学習院大学名誉教授）が主として1980年代末から90年代にかけて九州で行った盲僧琵琶の演唱の90本以上の動画、録音記録です。ミルマン・パリーによる東ヨーロッパの叙事詩の録音コレクション（ハーヴァード大学）にも匹敵する、世界的に見ても貴重な演唱の記録です。（伊東）

2: 田中照三関係資料

田中照三（1913-2018）は、宝塚歌劇の舞台装置デザインを出発点に、関西の新劇やオペラに広く貢献した舞台美術家であり、戦後関西舞台美術のパイオニアである。阪急勤務と並行して自立演劇にも取り組み、リアリズムに基づく舞台美術に日本の情感を融合させることで、戦後の関西演劇界の復興と革新に大きく寄与した。晩年は大阪芸術大学で後進の育成にも尽力し、伊藤熹朔賞や大阪府知事賞など数々の賞を受賞している。なお、田中

氏に関する資料は、教え子で後継者でもある堀田充規氏（元大阪芸術大学教授）によって管理されており、田中氏が遺した約225冊におよぶ貴重なスクラップブックが、堀田氏より寄託を受けた。（永田）

3: 不二工芸絵看板データ

不二工芸絵看板は、大阪の昭和期の劇場や映画館の正面を飾った手描きの大型看板で、不二工芸という看板制作会社が手がけていたものである。出演者の似顔絵や演目の場面を誇張された劇画調で描き、観客の注目を集める視覚的演出として重要な役割を果たした。昭和30～50年代に隆盛を極めたが、写真やデジタル表示の普及により衰退し、現在では昭和の視覚文化として再評価され、資料や展覧会で紹介されている。関係者のグループを代表する現在パリ在住の貴田奈津子氏より、その看板写真（約850点）のデータ（USB）の寄託を受けた。（永田）

学術協定

現在、中之島芸術センターが部局間学術交流協定を締結しているのは、韓国の国立韓国芸術総合学校演劇院と中国の上海戯劇学院の2校である。これはともに、大阪大学人文学研究科、同文学部とともに締結したものである。この協定に基づき、2024年度には、上海戯劇学院から張偉品教授が約7ヶ月間、大阪大学に滞在し、研究に従事した。また同年11月には、国立韓国芸術総合学校演劇院にて開催された第12回国際アジア演劇学会議に中之島芸術センター永田靖特任教授、人文学研究科演劇学コース伊藤寧美講師、大学院生5名とともに出席した。（永田）

1～5 … 田中照三関係資料
6～8 … 不二工芸絵看板データ
9～10 … 第12回国際アジア演劇学会議
国立韓国芸術総合学校演劇院



アート人材育成プログラム

「中之島に颯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」

「中之島に颯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」は、大阪大学が、文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けて推進したアート人材育成プログラムである。令和4年度から令和6年度まで開催されたが、令和

5年度からは、新設の大阪大学中之島芸術センターが加わり、大学院人文学研究科と総合学術博物館と共同で主催して、様々な芸術プログラムを開講し、アートマネジメント人材の育成に寄与した。

〈臨床のアート〉

アクセシビリティ・リサーチ・ジャム アクセシビリティ・リサーチ・ラボ 展

2023年11月25日(土)～12月3日(火)、NU茶屋町

「中之島に颯を放つ」のリサーチ・フレーム〈臨床のアート〉では、アーティストの檜皮一彦を講師に迎え、受講生とともにイベントをつくり、動かすことをねらいとした。令和5年度には、レクチャー、ワークショップ、リサーチを経験した受講生から、アクセシビリティをテーマにした企画を募った。受講生は企画書と予算書を整え、内外の講師による審査を経て、次の4つの企画が採択された。トークイベント(オープニングトーク「アクセシビリティ・トークセッション」+ガイドツアー、クローズingtーク「ふつうにできる/生きるということ」)、子連れで商業施設に訪れる

チャレンジ(子連れでNU茶屋町に行ってみ!～子どもと一緒に楽しみ尽くすNU茶屋町～)、編み機と車椅子を組み合わせた機械による展示とワーク(ビューアム～viewを編む～)、取り巻く環境をサインに変換する試みと、ユーモアを交えてショッピングの前提を問う展示(あるかもしれぬー茶屋町《サインフル・カフェ》《アクセシビリティ「」ショップ》)である。イベントは「アクセシビリティ・リサーチ・ラボ 展」と題し、商業施設であるNU茶屋町 4F STAND PARKにて、11月25日(土)から12月3日(日)まで開催した。(山崎)

- 1… アクセシビリティ・リサーチ・ラボ 展
- 2… ヴューアム～viewを編む～
- 3… 子連れでNU茶屋町に行ってみ!
- 4… あるかもしれぬー茶屋町
- 5… 掲出されたデジタルサイネージ広告



1



2



3



4



5

対談トークイベント「アートとキャリアを考える」

2025年1月13日(月・祝)

アート業界には美術館、芸術祭、オルタナティブスペース等の、さまざまな「場」があり、高い専門性が求められる一方、少人数で複数の業務をこなす現場が多いのが実情である。こうした課題について多角的に考えるべく、複数の現場を経験されてきた川口 万喜氏(京都市京セラ美術館 事業企画推進室広報担当)、鶴尾 佳奈氏(愛知県美術館学芸員)を招き、社会における文化芸術のあり方、それを支える働き方についてトークセッションを行った。文化の担い手が置かれている現状や労働環境の問題に対して議論が交わされ

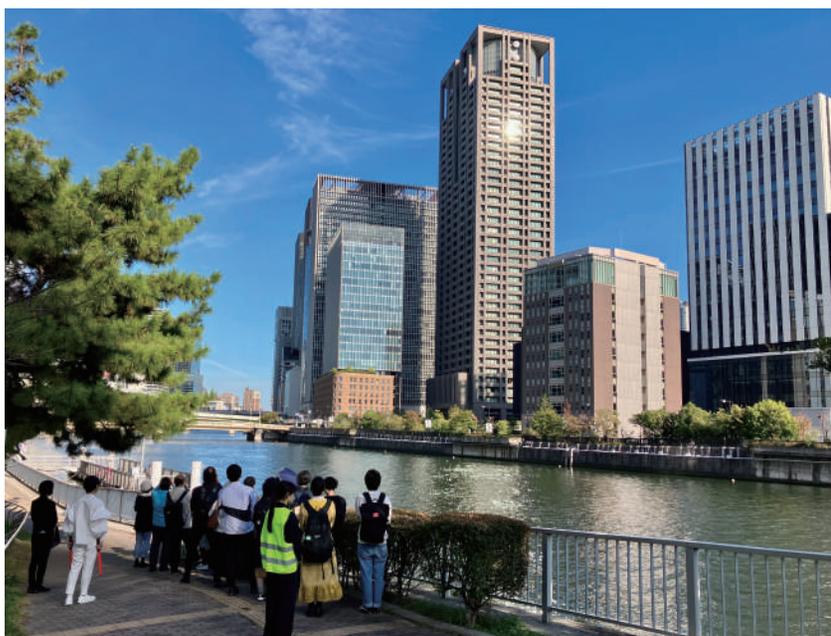
たほか、どのように次世代を育成していくのかに焦点が当てられた。アートマネジメントの人材育成が積極的に推進される一方で、現場における「やりがい搾取」やジェンダーの不均衡等の課題はいまだ改善の途上にある。参加者からは「アートのために全てを捧げるといふ一見美しい姿勢が結果的に低賃金・無償労働を招いてしまっている」という指摘があったほか、どの現場も同じ問題を抱えていることから「これは構造的な問題であり、根本的には制度の見直しが必要ではないか」という声が挙がった。(鄭)



『中之島デリバティブII』&『中之島デリバティブIII』

2023年10月21(土)～22日(日)、2024年9月27(金)～28日(土)

『中之島デリバティブII』『中之島デリバティブIII』は、ともに劇団極東退屈道場の林慎一郎・演出による回遊型の演劇作品である。前者は2023年10月21日と22日に、後者は翌年2024年9月27日と28日に大阪中之島を舞台として上演された。これらは大阪大学中島芸術センターが主催した文化庁「大学における文化芸術推進事業」による社会人講座「中之島に馳を放つー大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環として企画(永田靖企画立案)され、市民受講生とともに創作された。作品は、過去の通信手段である手旗信号や公衆電話を用いて、未来と過去を架橋し、都市空間の歴史や記憶を再構成する試みとなっている。劇中では、未来に墜落した宇宙探査機ルーシーが、地球に散らばった記憶の断片を手旗信号と電話によって再回収するというプロットが展開される。回遊する観客は、劇場内外を移動しながら、公衆電話を通じて演者が語る個人の記憶に耳を傾ける。これらの記憶は受講生による自筆のテキストであり、自伝的断片が都市空間の物語と重ねられる。過去を想像的に虚構化することで、中之島と大阪の未来を見据えた演劇実践である。『中之島デリバティブII』は、2023年度関西えんげき大賞優秀作品賞を受賞した。(永田)



- 1… 中之島デリバティブII舞台装置
- 2… 中之島デリバティブIIチラシ
- 3… 中之島デリバティブIIIチラシ
- 4… 中之島デリバティブII上演中
- 5… 中之島デリバティブIII上演中

「アートとその分身」

2024年7月～2025年2月

本リサーチ・フレームでは、人形というテーマで緩く連なったA)「人形のバレエ」、B)「人形の音楽劇」、C)「聴く古典芸能」という三つの活動を行った。このうち、A)の2023年度では人形を呼び物とするバレエの背景に関する研究やニジンスキー研究の成果を踏まえ、知覚におけるマイノリティをVR技術で体験する試みが行われた。さらにA)とB)は2024年度に合同で「人間を脱出したモノたちへ」と題した公演(「ペトルーシュカとロベルト・モンテネグロ」「ペドロ親方の人形芝居」)を行なった(2024年2月14、15日、ピッコロシアター)。前者はストラヴィンスキーの「ペトルーシュカ」の再創造であり、関典子氏(神戸大准教授) 振付・出演、古後奈緒子准教授(芸術センター兼任)のプロデュースによるものである。後者は、ファリャの人形オペラ「ペドロ親方の人形芝居」を浄瑠璃の人形を使って上演するというものでいいむろなおき氏による演出。能勢浄瑠璃シアター鹿角座などの協力を得て、伊東信宏(当時センター長)がプロデュースし、受講生の一部が人形を扱うなどの形で出演した。C)では、2023年度に太夫・竹本織太夫、三味線・鶴澤清志郎を招き、照明を落としたスタジオで素浄瑠璃を聴く、という試みが行われた。2024年度は視覚障害者を招き、十分な準備を行なったうえで地下のライブハウスにおいて「菅原伝授手習鑑：寺子屋の段」を聴くという公演が行われた。鈴木聖子准教授(芸術センター兼任)の企画である。(伊東)



1



2



3

1…「ペトルーシュカとロベルト・モンテネグロ」の舞台

2…「ペドロ親方の人形芝居」の舞台

3… 肥後橋 CAFE VOXXにてリハ中の鶴澤清志郎氏と視覚障害者歩行テープ「ココテープ」を床に貼る田中京子氏

〈臨床のアート〉アクセシビリティ・リサーチ・ジャム 展示・ワークショップ「さあクル おにクル とらいアル」

2024年12月13日(金)～15日(日)、茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

「中之島に鮫を放つ」のリサーチ・フレーム〈臨床のアート〉は、アクセシビリティをテーマとし、アーティストの檜皮一彦を講師に迎えた。令和6年度も受講生による企画を公募し、アクセシビリティに配慮したイベントの実施を目指した。受講生は、講座で学んだ後、企画書と予算書を作り、応募した。集まった企画は、内外の講師によって審査され、次の3つのテーマと企画が採択された。

「再生可能エネルギー」をテーマとして、ワークショップ「サステナブル茶会—電気を味わう—」を行った。和室を茶室に見立て、3種類の電源で沸かしたお湯で入

れたお茶を提供し、参加者と語りあった。屋外には、ソーラーパネルが設置された檜皮一彦の車椅子作品も展示した。アクセシビリティ保障への取り組みには、スロープ設置、UDトーク、椅子対応があった。

「呼吸」がテーマのワークショップ「呼吸を介したコミュニケーションスキル向上—演劇的手法を用いた呼吸ワークショップ—」は、講師に英衿子(ハナさくらボ)を迎えて開催した。演劇の練習にある呼吸法を応用して、緊張の軽減や円滑なコミュニケーションなどの効果をねらった。アクセシビリティ保障への取り組みには、筆談対応、

事前プログラムデータ配布があった。

「夢」のテーマでは「ゆめクラウド—睡眠中の夢で遊ぼう—」と題して、就寝時の夢を募るプロジェクトを進めた。夢短冊や絵などの展示、音声と映像を活用したブースを用意した。また、ゲストに山下朋美(大阪大学)を迎えたトークイベント「あなたの物語をひらく—一本と夢の世界から—」も開催した。アクセシビリティ保障への取り組みには、絵、文字、多言語、UDトークなどを用意した。

イベントは、12月13日から12月15日まで、茨木市文化・子育て複合施設 おにクルにて開催した。(山崎)

- 1…「さあクル おにクル とらいアル」会場の様子
- 2… サステナブル茶会
- 3… 檜皮一彦の車椅子作品
- 4… 呼吸を介したコミュニケーションスキル向上
- 5… ゆめクラウド



〈日常のポイエティーク〉町工場アートの可能性を探る

2023年11月10日(金)～18日(土)、東大阪市、

2024年9月15日(日)～11月16日(土)、マツダ紙工業株式会社、東大阪市

「中之島に鮠を放つ」のリサーチ・フレーム〈日常のポイエティーク〉のひとつ「町工場アートの可能性を探る」では、大阪に無数に存在する町工場をテーマに、その魅力や可能性を発信すべくプログラムを推進した。

令和5年度には、東大阪市で開催された「こーばへ行こう!2023」に参加し、受講生それぞれの関心に沿って工場を見学し、感想と共に、「実施してみたい企画」について企画案や予算案を立てたレポートを募った。

令和6年度は、上記の受講生による企画案から審査を行い、紙でできた紙芝居舞台の製作と、町工場をテーマとした紙芝居の作成を行うという企画1件を採用した。企画の実施のために、ダンポー

ルや紙製品を主に扱う、マツダ紙工業へ依頼し、コラボレーションすることで実現した。紙芝居については、講師に、柿本香苗(紙芝居「まつぼっくり」代表、ジシュウシツゆらアドバイザー)、乾理加(ジシュウシツゆら、中之島に鮠を放つII受講生)を迎え、紙芝居の基礎知識を学ぶとともに、紙芝居の実演体験を行った。同時に、東大阪への取材も行い、大阪モノづくり観光推進協会や野田金属工業による講義や工場見学を通して、東大阪のモノづくりについて学んだ。紙芝居作成ワークショップ、紙芝居実演ワークショップを経て、完成した紙芝居は「こーばへ行こう!2024」でのマツダ紙工業の会場にて披露された。講師の作成した紙芝居は講師の尽力により東大阪市へ寄贈された。(山崎)



1



2



3



4

1…野田金属工業でのレクチャー
(左:山本秀雄代表取締役社長、右:野田邦雄取締役相談役)
2…受講生による紙芝居の上演1、2
4…紙芝居公演後集合写真

〈日常のポイエティーク〉街との対話

2023年12月3日(日)、2024年10月10日(木)、天神橋筋商店街、

2024年11月19日(火)、大阪市内、2024年12月8日(日)、茨木市内

「中之島に鮠を放つ」のリサーチ・フレーム〈日常のポイエティーク〉では、「街との対話」と題し、ちんどん屋を題材に、ちんどん屋がいかに街と向き合い、宣伝活動を行っているのかを学んだ。

令和5年度は、受講生の有志を募り、受講生による企画を行うこととした。受講生有志と相談した結果、ちんどん屋に関するイベントを12月3日に1日開催することとなり、ゲストにちんどん通信社を迎えることで決まった。内容は、受講生による、ちんどん通信社の内野真、仮屋崎郁子へのインタビュー、ちんどん通信社の林幸治郎とつくる語り芸のワークショップ、林幸治郎と受講生代表者の対談であった。広報や企画内容、当日の運営等のほとんどを受講生が担って実施された。

令和6年度もちんどん通信社を講師に迎えた。当該年度では、ちんどん屋がいかに街と向き合い、対話し、溶け込んでいるかを

実体験してもらうために、ちんどん屋による宣伝活動を受講生がプロデュースする内容で進めた。宣伝を行った企画は次のとおり。

- 大阪大学総合学術博物館第26回企画展「懐徳堂創立300周年記念展覧会 懐徳堂って知ってはる? 一大阪大学が受け継ぐなにわ町人の学問所」の関連企画の落語会「落語と対話で楽しむなにわ町人の文化・学問」
- 大阪大学中之島芸術センター展覧会「旅するカミサマ 迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」
- 展示・ワークショップ「さあクル おにクル とらいアル」

上記のちんどん屋との宣伝活動を通して、受講生は、ちんどん屋の仕事や仕事ぶりについて、実践的に学ぶことができた。(山崎)



1



2



3



4

1…仮屋崎郁子(左)、内野真(右)へのインタビュー
2…林幸治郎とつくるワークショップ
3…落語会の宣伝(天神橋筋商店街)
4…「さあクル おにクル とらいアル」の宣伝
(茨木市文化・子育て複合施設 おにクル)

芸術共創研究部門

共創芸術研究部門では、大きく分けて三つのプロジェクトを推進した。

基盤プロジェクトI「AIと芸術の創造・評価」では、研究活動と並行して演劇作品創作にも取り組み、

基盤プロジェクトIIでは特任研究員の協働企画による研究を実施した。

公募型研究費プロジェクト（2024年度は「共創芸術プロジェクト」に名称変更）では、

センターの枠組みを超えた学内公募を通じて研究プロジェクトが設定された。

基盤プロジェクトI

基盤プロジェクトIは、多様な他者との関わり合いの中で、芸術と社会、芸術と科学技術をつなぐ活動を展開することを目指し、「AIと芸術の創造・評価」プロジェクトが設定され、次の3つの研究課題が実施された。

(1)「演劇におけるAIと先端技術」研究代表者：イリーナ・カスティリャンチャンカ（2023年～）

(2) 中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える」研究代表者：田中均、イリーナ・カスティリャンチャンカ（2023年～）

(3)「ポストAI型知能：天然知能・天然表現による創造性」研究代表者：中村恭子（2025年～）* 2025年度より学内外自然科学研究者との新領域開拓を目指し設定された基盤プロジェクトIIIと連動

「世界初のAIを用いたドキュメンタリー演劇台本の制作

「日本の野良猫・野良犬：生きる希望と共に」

本プロジェクトは、インタビューやその他の資料に基づきながら、AIによってドキュメンタリー演劇の台本を創作する試みである。主題は、現代社会における野良猫や野良犬の問題についてであり、これについてAIと共に考えることを目指した。これは中之島芸術センターの基盤プロジェクト「AIと芸術の創造・評価」の一環として行われたものである。

制作・研究のプロセス：

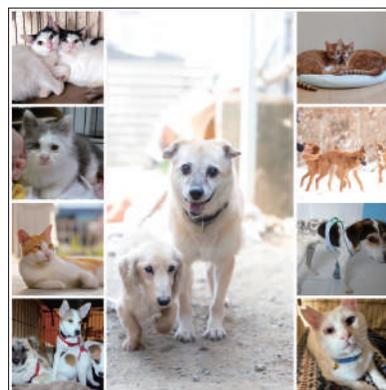
- AIにドキュメンタリー演劇の特徴を理解させた。
- AIがドキュメンタリー演劇創作上の諸問題（特にインタビュー相手の語り口や方言など）を尊重する必要性を把握できるかどうかを評価した。
- 制作された台本が、事実に準拠してい

るか、ドキュメンタリー演劇の原則に則っているかどうか、を人間（研究員）がチェックし直した。

- 制作された台本が、ソースデータ（インタビュー）に準拠しているかどうかをチェックした。

—
仕上がった台本は、実際に起こった出来事やその余波、そこから得られた教訓、そして猫たち犬たちがたどった運命について、いくつかの視点を通じて辿るものとなった。台本は、猫に関するもの5話、犬に関するもの5話の合わせて10のストーリーで構成されている。

—
この台本は、研究会や学会シンポジウムで公開され、今後は上演することを目指している。（イリーナ）



ドキュメンタリー台本

「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム

2024年3月15日(金)、2025年3月7日(金)・8日(土)

「AIと芸術の創作・評価」の一環として、「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」公開シンポジウムを2023、2024年度末に開催した。本シンポジウムは、様々な観点から芸術と新しいテクノロジーの関係が検討された。(イリーナ)

第1回シンポジウムでは、登壇者の講演やELSIセンターからの質疑、ディスカッションを通じて、倫理的・社会的観点などから日本演劇と新しいテクノロジーの関係を検討した。

開催日時：2024年3月15日(金)

講演者：あごうさとし(THEATRE E9 KYOTO)・山本裕紹(宇都宮大)・John Smith(東京大)
コメンテーター：鹿野祐介(大阪大)・長門裕介(大阪大)

第2回シンポジウムは独立したテーマによる3つのセッションで構成した。

開催日時：2025年3月7日(金)・8日(土)

第1セッション

「生成 AI による芸術作品：その価値と

創造主体」ELSI 共創プロジェクトのセッション

講演者：田中均(大阪大)・長門裕介(大阪大)

コメンテーター：加藤隆文(大阪成蹊大)

司会：肥後楽(大阪大)

第2セッション

「AIの天然知能化：そのキオク(記憶)を体験する」セッション

講演者：郡司ベギオ幸夫(早稲田大)・笹井一人(茨城大)・谷伊織(神戸大)・中村恭子(大阪大)・黒木萬代(大阪大)

司会：中村恭子

第3セッション

「AIを活用した演劇の創作と上演」国際セッション

講演者：David Kostak (Švanda Theatre)・Dominic Chamayou-Douglas (Université de Lille)・Krzysztof Garbaczewski (Dream Adoption Society)・Iryna Kastylianchanka (大阪大)・Thomas Rodrigues Crespo (京大)

司会：Iryna Kastylianchanka



1…第1回シンポジウム
2…第2回シンポジウム
3…第2回シンポジウム1セッション

中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画

「アート×ELSIを考える」VOL1,2,3

2023年8月21日(月)、11月20日(月)、2024年5月20日(月)

多様な他者との関わり合いの中で、科学技術と社会、芸術と社会をつなぐ活動をそれぞれ展開する2つのセンターが、「アート×ELSI」をキーワードとした新たな研究領域を拓くことを目指して共創企画として開催された。それぞれのセンターからの話題提供と参加者とのディスカッションを通じて、芸術と新しいテクノロジーの関係を、ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) をはじめとした様々な論点から検討した。(イリーナ)

VOL1 研究会

開催日時：2023年8月21日(月)

講演者：岸本充生「音楽ストーリーミング

サービスのアルゴリズムとELSI」・イリーナ・カスティリャンチャンカ「ドキュメンタリー演劇とAI～相互作用の可能性」

VOL2

開催日時：2023年11月20日(月)

講演者：赤坂亮太「AIによる・用いた創作と著作権法」・内藤智之「人工知能はいかにして人の創造性を学ぶのか？」

VOL3

開催日時：2024年5月20日(月)

基調講演：米倉豪志氏「芸術と機械」

コメンテーター：田中均・肥後楽



1…「アート×ELSIを考える」VOL1
2…「アート×ELSIを考える」VOL2
3…「アート×ELSIを考える」VOL3

基盤プロジェクトII

本研究プロジェクトは、芸術創出、とりわけ上演芸術の場に現れる実践知を、そこに関わる人々や社会、テクノロジーなど多角的な視点から掘り起こすことを目的としたものである。2023年度は、上演芸術に関する様々な領域を対象に、講座やシンポジウムを

企画し、実践知と研究知の交流を促進させた。2024年度は、「仮説性」をキーワードに、より個別の芸術を対象として、実践知における問題領域を焦点化させた。

文楽の制作 日本の古典芸能における制作の役割と意義

2023年11月25日(土)、12月10日(日)

現代の音楽・演劇などの上演芸術において「制作／プロダクション」は、芸術創作にも関わる重要な役割を担っているが、上演形態が慣習的に定められた古典芸能ではそうした領域への学術的な関心は少ない。今回の講座(全二回)は、日本の古典芸能を代表する人形浄瑠璃文楽において、制作の現場に長年携わってきた後藤静夫氏、および人形浄瑠璃の研究者である細田明宏氏を招き、古典芸能の上演現場における制作の内実、およびその役割や意義を考えるものであった。講座の前半(第一回)では、まずほとんど知られていない古典芸能(文楽)の制作の全体像が紹介され、制作

の幅広い職務内容が明らかにされた。そのいずれもが上演現場に欠かせないものであるだけでなく、制作が演者とともに上演の中心を担っていることも示された。講座の後半(第二回目)では、具体的な演目を通じて、より実践的な内容に踏み込み、上演演目の選定など、細かな部分まで関わることが紹介された。特に後藤氏から指摘のあった、演目設定などの重要な問題において制作が果たす役割は、現代の古典芸能において制作の重要性やその意義が十分に示されたものであった。二回の講義を通じて本プロジェクトの趣旨に沿った有意義な内容となった。(園田)



1 … 文楽の制作 チラシ

仮設の人形芝居—交叉する娯楽と民俗

2025年3月2日(日)

本企画は、基盤プロジェクトIIの事業であるとともに、同時期に開催された企画展覧会『小屋掛けの人形芝居 日本とアジア』の関連事業として行われた公開シンポジウムである。日本をはじめアジアでは、祭礼の日に民俗的行事として、また娯楽として野外で様々な人形芝居が演じられてきた。日々の暮らしの場に非日常の仮設の舞台空間を創り出し、人々を楽しませる人形芝居の存在を考えるために、日本・中国・インドネシアを対象とする芸能・人形劇研究者(福岡まどか氏、山下一夫氏、瀧見英明氏)を招き、人形芝居の多様な上演形態や舞台機構を紹介しながら、変容する社会状況のなかで

様々な姿を見せ続けてきた／見せ続けている人形芝居について議論した。シンポジウムでは、人形芝居の実演を交えた解説を行うとともに、人形を実際に触れる機会も設けた。また後半では、各地域の人形芝居を通して、特に共通する話題として、伝承の問題に焦点を当てて、文化財化や観光化などについて意見の交換がなされた。保存や継承に関する課題を抱えつつも、保護制度の在り方や、新たな舞台技術とも関わる現在の状況を地域間で共有できたことで、いずれの地域の人形芝居にとっても、今後に向けた新たな展開の可能性が見えた場となった。(園田)



1 … 公開シンポジウム
瀧見英明氏による人形操法の解説

「日本の現代演劇における 衣裳デザイン・舞台装置」特別講演

2024年2月29日(木)、3月20日(水)

「制作／プロダクション」という領域は、現代演劇のような上演芸術において芸術創作にも関わる重要な役割を担っているが、演者や作品に比べてその実態について目が向けられることは少ない。この特別講演(全2回)では、公演の制作現場に携わってきた方とともに、現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置の内実を考える。

本講演は、芸術センターの基盤研究プロジェクトII「芸術のプロダクション領域で行き交う実践知と研究知——上演芸術の実際」の研究活動の一環として開催した。(イリーナ)

第一回：2024年2月29日(木)

高橋 佳代(舞台衣裳デザイナー)

「舞台衣裳デザインの魅力」

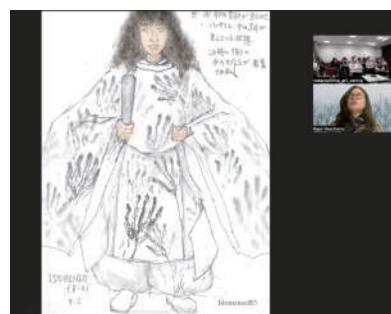
第二回：2024年3月20日(水)

柴田隆弘(舞台美術家)

「柴田隆弘の舞台美術」

1…日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置

2…日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置



「バーチャルリアリティと演劇： 仮設性の問題に向けて」特別講演

2025年2月12日(水)、2月15日(土)

2024年度の研究は、前年度に実施した「芸術の制作実践」を継続的に展開させつつ、舞台芸術における「仮設性」を新たな題材(テーマ)に据えた。舞台芸術の上演空間に不可欠な「仮設性」が見出せる仕組みを、伝統的な舞台技術機構から、昨今注目を集める先端技術にまで広げ、個別の具体的事例のなかで調査検討した。2つの講演を通して、バーチャルリアリティ技術を使った公演を制作した演出家が、公演の空間と時間、そして観客の認識がどのように変化したかを説明した。

本講演は、芸術センターの基盤研究プロジェクト「芸術のプロダクション領域で行き交う実践知と研究知——上演芸術の実際」の研究活動の一環として開催した。(イリーナ)

第一回：2025年2月12日(水)

西条みつとし(映画監督・ドラマ監督・演出家・脚本家、TAIYO MAGIC FILM 主宰)

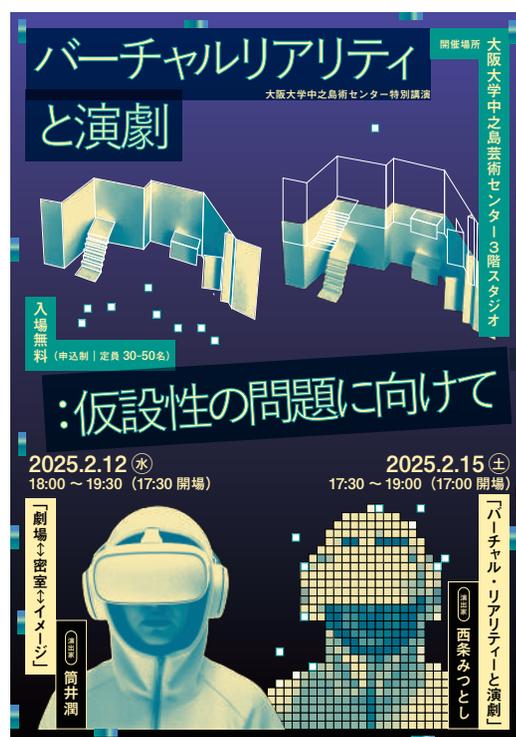
「モノを創っていく」

第二回：2025年2月15日(土)

筒井潤(演出家・劇作家・俳優、公演芸術集団 dracom リーダー)

「劇場⇄密室⇄イメージ」

1…バーチャルリアリティと演劇



kagurabu 中之島・ 神楽remix「まつりのにわ」

2024年12月14日(土)、15日(日)

令和6年度の基盤研究IIでは、「仮設性」をテーマとした。その中で、「芸能・芸術の時空における仮設、見立て、仮想——見えないものを見ようとする営みと試み」と小さなシリーズを設け、研究会やイベントなどを開催し、芸能や芸術を通して、人々が見えないものを見ようとする営みと試みに着目した。本イベントでは、神楽の舞台を仮設的に設え、神楽の時間に見えないもの(いわゆるカミヤ精霊など)とどのように交流を持とうとしているのかを探った。

kagurabuは、俳優・神楽舞手の高安美帆と岸本昌也、芸能研究の山崎達哉が共同で進めるコレクティブである。神楽や芸能について調査、研究、実践などを行う中で、今回、中之島をテーマに、都市部において祭りを発生させる試みの

イベントを開催した。4月頃から、中之島についてフィールドワークや文献などで調査し、神楽を「上演」するとはどういうことかの議論も進めた。

12月14日(土)はイベントの初日で、祭りの準備を参加者と行う日と設定した。この日には、使用する紙垂の作成などを行った。12月15日(日)には、展示と上演を行った。展示では、中之島や神楽、祭りに関するモノ・コトについての説明パネルを設けた。上演では、ロビー、教室、スタジオを活用し、高安の担う浪速神楽と岸本が担う石見神楽を混ぜたり交換したりしながら、舞を展開した。湯を沸かしたり、御幣をつくらしたりなど、舞や楽以外の神楽にまつわることについても紹介した。(山崎)



1



2



3



4



5

災と藝の TELESOPHIA —— 災禍における芸術・芸能と「靈性」

2025年1月16日(木)

令和6年度の基盤研究IIでは、「仮設性」をテーマとした。その中で、「芸能・芸術の時空における仮設、見立て、仮想——見えないものを見ようとする営みと試み」と小さなシリーズを設け、研究会やイベントなどを開催し、芸能や芸術を通して、人々が見えないものを見ようとする営みと試みに着目した。本研究会では、上演芸術における「靈性」を中心に話を進めた。

2025年1月16日(木)には、明治学院大学の富田大介准教授を招き、研究会「災と藝の TELESOPHIA —— 災禍における芸術・芸能と「靈性」」を開催した。これは、富田自身が『『RADIO AM神戸69時間震災報道の記録』リーディング上演』省察』(cf.『残らなかったものを想起する：「あの日」の災害アーカイブ論』、堀之内出版、

2024)で述べた内容等を中心としたもので、「紛争・災害の TELESOPHIA」(cf. 山崎達哉『TELESOPHIA』プロジェクト『記憶の劇場：大阪大学総合学術博物館の試み』、大阪大学出版会、2020)で経験した内容を大きく発展させている。TELESOPHIAは「遠い知」から解釈を広げ、「知を伝える／伝わる知」のように使っている。

研究会では、災害を題材とした作品を上演するにあたり、調べたことや考えたこと、上演中また上演後を振り返って、富田自身が感じた「靈感」について語られた。デュランやベルクソンの論を活用しながら、東日本大震災の時に聞かれた言説、岡田利規の上演と彼の言説なども用いて、舞台経験を中心に、生活での話も含めて話題が提供された。(山崎)

- 1… 展示した小天蓋
- 2… ロビーの様子
- 3… 高安美帆
- 4… 湯立てに見立てた「上演」
- 5… 舞う高安美帆(左)と岸本昌也(右)

坂本桃子さんトークイベント

「食べて祀って——熊本県八代市坂本町のお祭りと食べ物」

2025年3月10日(月)

令和6年度の基盤研究IIでは、「仮設性」をテーマとした。その中で、「芸能・芸術の時空における仮設、見立て、仮想——見えないものを見ようとする営みと試み」と小さなシリーズを設け、研究会やイベントなどを開催し、芸能や芸術を通して、人々が見えないものを見ようとする営みと試みに着目した。本トークイベントでは、祭礼における飲食および食べ物と見えないものとの交流を図る人々の営みについて話を展開した。

2025年3月10日(月)に、熊本県より坂本桃子を招き、著書『食べて祀って 小さな村の祭りとお供え物』におけるお祭りと飲食物の関係についてトークイベントを行った。熊本県八代市坂本町では、それぞれの集落ごとに行事あるいはお祭りが

あり、そのお祭りごとに近隣の人々が様々な飲食物を持ち寄るといふ。何かあるごとに人が集まり、飲食をし、世間話をする重要な時間を過ごしている。一方で、お祭りにおける飲食物は「カミサマ」へ献げるものという意識は失われていない。特に印象的だったのは、2020年の豪雨災害をきっかけに、坂本自身が飲食物を持ち寄るお祭りを立ち上げたということである。「赤の祭り」と名付けられたお祭りを開催することで、人が集まり、共に飲食をし、互いに話をしたとのことであった。お祭りそのものが、人が集まるきっかけとなり、災害の慰めともなり、お祭りが人々にとって不可欠であることの確認となったという。この「赤の祭り」は続けられている。(山崎)



1 … 坂本桃子

共創芸術プロジェクト

公募型研究プロジェクト(2024年度は「共創芸術プロジェクト」に名称変更)では、大学院生・学部生および社会人が芸術の実践に参画し、そのプロセスとともに体験する「共創芸術」を推進するために、芸術に関する学際的研究、新領域の開拓、社会学連携の新

たな取り組み、教育手法の開発といった内容の共同研究を学内で公募し、2023年度には2件、2024年度には3件のプロジェクトを採択した。

トークイベント

自然に還る、生に返す

2024年10月6日(日)

2024年10月6日(日)10:00-12:00に、大阪大学中之島センター3階スタジオにて、ラスキン展の特別イベントとして、「循環葬」を提唱する小池友紀氏をゲストに迎え、ラスキンの語る「生」の意義についてのトークイベントをおこなった。ラス

キン研究者の横山千晶(慶応義塾大学教授)と、コミュニティデザイナーの山崎亮(studio-L代表)とともに、一般の来場者に向けて、ラスキンの死生観をめぐって、多岐にわたる議論を繰り広げた。(高安)



映画懇談会 知的障害者を主体とする映画制作

2024年10月12日(土)

2024年10月12日(土)17時30分から19時30分まで、大阪大学中之島センター三階スタジオにて、知的障害者を主体とする映画制作についての懇談会をおこなった。最初に、映画学を専門とする東志保(大阪大学)が、知的障害者をあつかった映画の前史について解説したのち、デザインを専門とする工藤真生(九州大学)が、社会の側に障害があるという見地にもとづく映画制作プロジェクトの報告をおこない、映像作品の一部をじっさいに鑑賞する機会をもった。

2023年6月から福岡の社会福祉施設「JOY倶楽部・アトリエブラヴォ」とともに始まった本プロジェクトは、知的障害を持つ人々がクリエイターの支援を受け、映画の被写体としてではなく、自ら映画を制作することを目指した珍しい取り組みで、障害者みずから自分を表現する機会を持つこと、そして、多くの人々が

一人ひとりの障害者の感じかたに気づき、社会における障害の意味について考え、障害の多様性に出会うきっかけとなることを目指すものである。

懇談会では、この取り組みへの本質的な問いが投げかけられた。このプロジェクトの成果を「映画作品」として世に問うのなら、誰に向けてのものなのか、どう鑑賞すべきものなのか、そもそもそれは不特定多数に「鑑賞」される性質のものだったのかと。時間内におさまらないほど多くの質問が寄せられたため、予定時刻でいったん懇談会を打ち切って、工藤氏を囲んで一五名ほどで「アフタートーク」をおこなうことになった。親密な雰囲気のもと、このプロジェクトを続ける困難や、今後の可能性や、社会の〈障害〉への向き合いかたについて、一時間以上にわたり語り合った。(高安)



シンポジウム 社会福祉と〈アート〉

2024年10月13日(日)

10月13日(日)に国立国際美術館にて、社会福祉と〈アート〉をめぐるシンポジウムをおこなった。社会福祉の領域においてアートは、個人の心のケアや、社会包摂のように、何かの目的にたいする手段として語られがちだが、アートはたんなる手段ではないという以上に、現実世界に生きる人々の活動のうちに融解しているという局面もあるように見受けられる。本シンポジウムでは、障がいのある人の創作活動について研究をおこなってきた服部正(甲南大学)と、釜ヶ崎にお

いて長年アートを中心とした活動をおこなってきた上田假奈代をパネリストに迎えて、議論をおこなった。(高安)

—
アール・ブリュットの居場所はどこにある
服部正(甲南大学)

わたしを束ねないで。

上田假奈代(NPO法人こえとことばとこころの部屋)

コメントとディスカッション

田中均(大阪大学) 岩崎陽子(嵯峨美術短期大学)

中之島芸術センター開館記念展覧会 「アートトリップ・ナカノシマ——モダン中之島コレクション・アネックス」

2023年5月2日(火)～7月30日(日)

大阪大学中之島芸術センターの開館を記念し、第一弾の展覧会として、「アートトリップ・ナカノシマ——モダン中之島コレクション・アネックス」を2023年5月2日(火)から7月30日(日)まで開催した。この展覧会は、中之島芸術センター最初の展覧会ということで、「大阪・中之島」をテーマに、中之島が題材あるいは舞台となった作品や中之島を中心に展開したアート、中之島と近代、大阪大学が実践しているアートプログラム等について展示した。

第一章を「中之島と芸術——芸術が花開くアートアイランド」とし、大阪・中之島で開花した、美術、音楽、文学、演劇など多彩な芸術を紹介し、中之島と芸術の関わりを考えた。

第二章を「人の集まる場所・中之島——建築・景観・都市美・観光を意識したアートガーデン」とし、人が集まる性格の中之島について展示した。中之島は、江戸時代には蔵屋敷や米市場が並び、近代には公共機関の集まるシビックセンターへと発展した。昭和の時代には、都市美を意識した整備や、水上も含む観光への注力が進んだ。

第三章を「大阪大学と中之島——大阪大学中之島芸術センターから発信するアートプロジェクト」とした。中之島地域は大阪帝国大学が創設された大阪大学の発祥の地で、2004年には、大阪大学中之島センターが開設された。大阪大学と中之島との関わり、大阪大学が展開するアート活動などについて紹介した。

なお、本展覧会は、大阪大学総合学術博物館 第16回特別展「モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター」を参考としたため、副題に「アネックス」と付した。展覧会の開催には、大阪大学大学院人文学研究科、大阪住まいのミュージアム(大阪暮らしの今昔館)の協力を得た。(山崎)



- 1…アートトリップ・ナカノシマ 第1章
- 2…アートトリップ・ナカノシマ 第2章
- 3…展示室内の様子
- 4…アートトリップ・ナカノシマ 第3章

大阪大学中之島芸術センター開館記念 中村恭子日本画作品展「風景の肉体」

2023年9月6日(水)～9月30日(土)

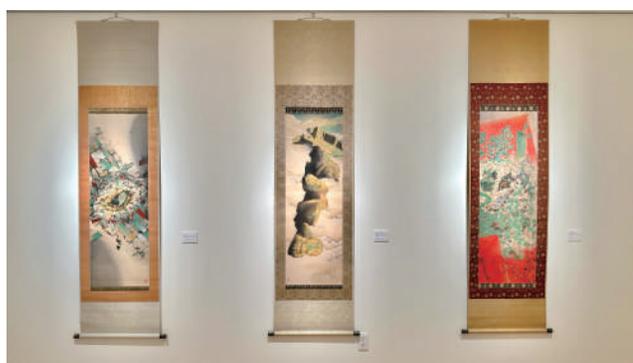
中之島芸術センターの開館を記念し、新たに着任した芸術センター教員である日本画家、中村恭子による作品展示を行った。これまでの中村の研究成果である日本の古画に見られる風景表現「書き割り」をテーマにした日本画作品を中心に、約10点を公開した。また、社会ソリューションイニシアティブ (SSI) との共同開催で、大画面パノラマ投影による約14mの卷子《血鉢絵巻》(中村恭子筆)を公開した。(中村)



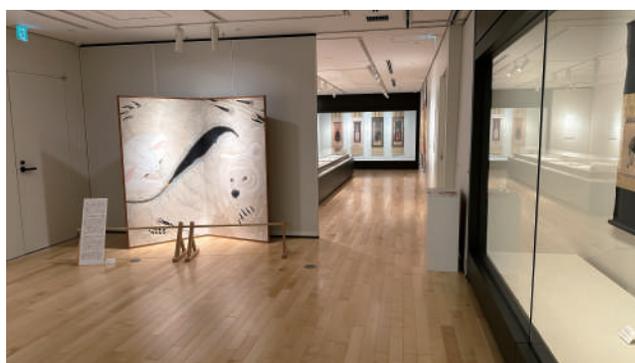
1



2



3



4



5

1… 中村恭子《血鉢絵巻》パノラマ投影

2… 中央作品：中村恭子《血鉢絵巻》2015-16年

3… 中村恭子「反古墳三部作」2021-2022年

4… 左作品：中村恭子《熊奏図》2012年、奥作品：《書割少女》2020-2021年

5… 中村恭子《風景を漁る者—現実よりも懐かしい—》2017年

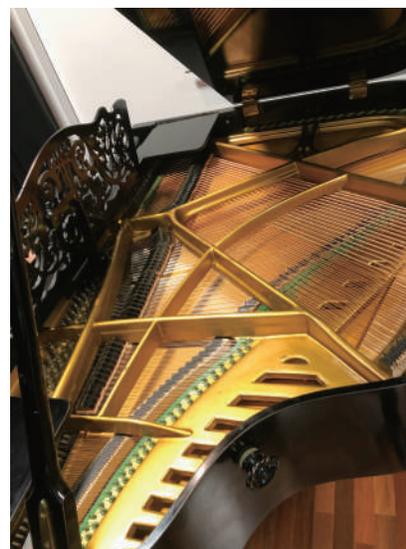
ピアノびらき： ヴィルヘルム・ペッパーのベビーグランド

2023年9月10日(日)

芸術センター「スタジオ」に導入された新しいピアノは、ヴィルヘルム・ペッパー社が1930年代後半に製造したもので、奥行きは120cmほどのベビーグランド・ピアノである。このピアノのお披露目としてピアニスト北村朋幹氏（ベルリン在住、佐治敬三賞を受賞したばかりだった）をお迎えし、ドビュッシーやシェーンベルクなどによる、このピアノで弾かれるにふさわしい作品を聴き、このベビーグランド・ピアノに関して解説し、さらに修復を担当された山本宣夫氏（ヤマモトコレクション、大阪芸術大学客員教授）にもお話を聞くという催しを開催した（2023年9月10日(日) 14時から2時間、3階「スタジオ」、入場無料）。

プログラム後半では、通常のように曲目を決めるのではなく、会場の様子を見ながらいくつかの候補の中から音楽を聴く、という試みも行った。実際に演奏されたのは、シューマンの「予言の鳥」（『森の情景』より）、バルトークの「献呈」（『10の易しい小品』より）、「夜の音楽」（『戸外にて』より）、グリーグの「アリエッタ」（『抒情小曲集』より）、ケージの「夏」（『四季』より）、クルターグ「白昼夢…」（『遊び』6巻）などで、いずれも極めて繊細で、美しい小品である。90年前にこの楽器で弾かれたかもしれない曲、あるいは今この場で呼び起こすのにふさわしい曲などが選ばれた。このやり方は近代（特にコロナ禍以降）の演奏会の状況に対する問題提起でもあった。

当日は北村さんの盟友でもある郷古廉氏（現NHK交響楽団第1コンサートマスター）も飛び入り参加されるなど、盛況となり、このような催しをぜひ続けてほしいという声を多数いただいた。（伊東）



1…会場入り口
2…ペッパー社のベビーグランド・ピアノ
3…北村朋幹氏の演奏

第18回特別展博物館・豊中市連携事業 中之島芸術センター開館記念 「豊中市所蔵 京・大坂 日本絵画の精華 ～花鳥画の名品から俳画の珍品まで～」

2023年10月14日(土)～11月19日(日)

大阪府の北部に位置する豊中市は、江戸時代から現代にかけて、数多くの文化人・芸術家が集う文化都市として発展してきた。今回の展覧会では、2021年に豊中市から大阪大学総合学術博物館へ寄託された約250点の日本絵画の中から、選りすぐりの優品およそ50点を紹介した。展覧会の準備にあたっては、2022年より本学人文学研究科の門脇むつみ教授の指導のもと、学生の協力を得て調査研究を進めてきた。2023年4月には、大阪大学中之島芸術センターが開館し、展示室が新設されたことから、本展は同センターと豊中市の2会場で開催する運びとなった。学生たちが中心となって執筆したリーフレットも作成し、会場にて無料配布した。

また、会期中には2回のレクチャーを開催した。10月14日(土)には、橋爪節也氏が「近代大阪画壇のパースペクティブ～森琴石から北野恒富、島成園まで～」と題して、文人画から美人画に至るまで、近代大阪画壇の魅力と最新の研究成果について幅広い視点で講演を行なった。続く11月19日(日)には、門脇むつみ氏が「京・大坂 日本絵画の精華展に寄せて 私のお気に入り」と題して、展示作品の中でも特に珍しい、河東碧梧桐による「猫図」について、他の作品と比較しながらその特徴を詳しく解説した。さらに、ギャラリートークも2回開催した。担当したのは、調査や作品解説に携わった学生2名で、展示概要や作品の主題、描写技法について来館者にわかりやすく説明した。事前には時間配分や導線、解説内容を検討し、練習を重ねて臨んだ。来館者から鋭い質問が寄せられる場面もあり、学生にとっては非常に貴重な経験となった。(波瀬山)



- 1 … 中之島芸術センター展示室の様子
- 2 … 学生によるギャラリートーク
- 3 … レクチャーの様子
- 4 … 作品調査の様子
- 5 … 作品の一例・河東碧梧桐「猫図」

大阪大学総合学術博物館 第25回企画展

「ちんどん屋—宣伝・広告に生きるハブ（集積／中継／交流）芸能—」

2023年10月25日（水）～2024年2月17日（土）、大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館第25回企画展では、大阪大学中之島芸術センター、大阪大学総合学術博物館が主催となり、展覧会「ちんどん屋—宣伝・広告に生きるハブ（集積／中継／交流）芸能—」を開催した。会場は、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的室、会期は、2023年10月25日（水）から2024年2月17日（土）までであった。路上で宣伝を行うちんどん屋をテーマに、その歴史や、宣伝に用いられる芸など、ちんどん屋の魅力を紹介した。

ちんどん屋は、様々な芸を用いて人々の耳目を集め、各種の宣伝をすることを生業としている。その用いられる芸とは、音楽、語り芸、芸能の仕草、時と場合に合わせた衣装など多種多様である。それらの芸は、過去から受け継いだものに加え、取り入れられた新しい芸など、時空を超えた蓄積があり、さらに次代へも伝えられている。すなわち、ちんどん屋の芸は、ちんどん屋を軸として、各種芸能の時代や種類、領域を問わず集め、交わらせ、繋ぐ、ハブ的な芸といえるだろう。

展覧会の第1章は「ちんどん屋とは」としてちんどん屋の紹介をした。第2章を「企業の楽隊広告」とし、ちんどん屋の前身といえる企業が活用した楽隊広告を展示した。第3章は、ちんどん屋が活用する様々な芸を紹介する「ちんどん屋の芸」とした。第4章を「ステージ、イベント等のちんどん屋」とし、舞台上で活躍するちんどん屋の様子や、現代に生きるちんどん屋、ちんどん屋を招く方法などを展示した。

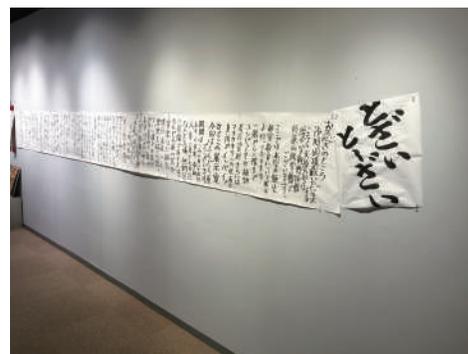
本展覧会の開催には、大阪大学大学院人文学研究科、ちんどん通信社（有）東西屋の協力を得た。なお、本展については、「大阪大学総合学術博物館 年報2023（2025）」においても報告があるので参照されたい。（山崎）



1



2



3



4



5

1… 顔はめパネル

2… 第1室の様子

3… 展覧会紹介口上の巻物

4… ギャラリートーク

5… 中之島エリアでの街廻り宣伝

演劇上演『ヤスキチ・ムラカミ 遠いレンズを通して』& 写真展『ヤスキチ・ムラカミの世界展』

2023年12月12日(火)～2024年1月21日(日)、2024年1月19日(金)～21日(日)

演劇作品『ヤスキチ・ムラカミ 遠いレンズを通して』は、オーストラリア在住の写真家・金森マユによる創作であり、日系移民で写真家でもあったヤスキチ・ムラカミ(1897-1944)の生涯を描いた一種の写真劇である。原作は英語で2016年にオーストラリアで初演され、2024年1月19日～21日には大阪大学中之島芸術センターにて、永田靖により企画立案され、早稲田大学の佐和田敬司教授による翻訳、京都芸術大学の山口浩章准教授の演出により上演された。劇中では金森自身が登場人物となり、ムラカミの足跡を辿り、失われた写真を和歌山県田並の実家で発見する過程が描かれる。ムラカミの写真は映写され、登場人物のように扱われるほか、収容所で没したムラカミ本人が夢幻能のように現れ、金森に写真家としての姿勢を語りかける。劇は、写真に宿る「声なき声」を聴き取り、弔いと記憶の継承を主題とし、移民の移動性と定住の概念に新たな視点を投げかける。上演にはムラカミのご親族も来場し、歴史的記憶と劇が交差する象徴的な瞬間となった。また同センターでは、金森のキュレーションによる写真展『ヤスキチ・ムラカミの世界展』(2023年12月12日～2024年1月21日)も同時開催された。(永田)



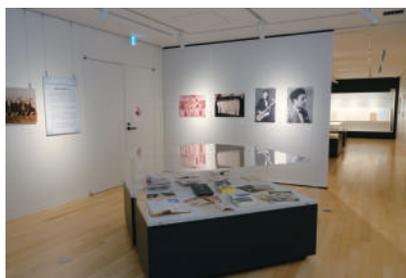
1… ヤスキチ・ムラカミ遠いレンズを通して 上演チラシ
2… ヤスキチ・ムラカミ遠いレンズを通して 上演
3… 上演&写真展パネル

服部良一と笠置シズ子： 花開く大阪音曲

2023年2月20日(火)～3月9日(土)

本企画展は、作曲家の服部良一と、歌手・俳優の笠置シズ子の事績を、特に大正末から昭和初期の大阪における折衷的な娯楽文化の形成という背景を重視して視覚的に展示するものである。展示は、企画者の輪島裕介(芸術センター兼任教員)が2023年に出版した『昭和ブギウギ：笠置シズ子と服部良一のリズム音曲』(NHK出版新書)の記述に即して、当時の出版楽譜、雑誌、ポスター、写真によって構成された。服部・笠置両者のご遺族のご厚意で、服部の自筆楽譜データ、スチル写真、笠置の衣装の360度動画などの展示が可能となった。特に、「東京ブギウギ」に先立って作曲された「神戸ブギ」(1946)の、近年発見された自筆譜現物を服部家からご提供いただき、展示の中心とした。

会期中に関連イベントを3回開催した。2月25日は「水都スウィング今昔：大実演会」と題し、ダンス団体「大阪スウィング」とバンド「Clap Stomp Swingin'」メンバーを中心とする楽団によるダンス講習と演奏を中心とした。3月9日は、娯楽映画研究家の佐藤利明氏による映像の紹介を含む講演と、短い実演を行った。この2回は芸術センタースタジオで行い、3月11日には、神戸映画資料館で、戦前の笠置シズ子の歌唱シーンを含む新発見映像の初上映を行った。各回とも、「神戸ブギ」の再現演奏を行い、テレビ、新聞などでも取材を受けた。(輪島)



1… 展示室(入り口側)

2… 展示室奥

3… 2月25日イベント「水都スウィング今昔・大実演会」のダンス講習

4… 3月9日イベント、佐藤利明氏を迎えての「昭和ブギウギ伝説」

糸川耀史写真展「回顧録」

2024年5月14日(火)～6月9日(日)

本企画は、約70年にわたり大阪を拠点に人と街を撮り続けた写真家、糸川耀史の個展として企画された。糸川は、一般には『プレイガイド・ジャーナル』誌に掲載された「関西フォーク」の音楽家や、『マンスリーよしもと』誌の芸人のポートレートによって広く知られるが、本企画は大学の展示室という性格を生かし、被写体のポピュラリティにこだわらず芸術家としての個性を表現する場として2023年夏に始動した。糸川氏は会期直前の2024年2月に逝去し、残念ながら追悼展となったが、「回顧録」というタイトルはじめ、関連イベントの出演者に至るまで、糸川氏自身の入念な企画・構成に基づいている。実験的な映像作品から、大阪の路地のスナップショット、有名人・無名人取り混ぜた膨大なポートレートをボードに配置した作品などが展示され、会期中に展示替えもしばしば行われた。期間中には関連イベントとしてスペシャルライブ「FUNKY DAYS LIVE!!」を3回開催した。糸川とゆかりの深い、大阪を拠点とする演者が集った。「DAY1」(5月19日)は関西のフォークとブルースを代表するギタリスト、有山じゅんじ、「DAY2」は糸川と同年の1934年生の現役ジャズピアニスト、大塚善章のクインテットをメインに多くの出演者が共演し、「DAY3」は嘉門タツオがソロ公演を行った。これらは有料公演であり、収益化事業に向けての実験でもあった。(輪島)



1 … 中之島センター玄関に掲げられた看板

2～3 … 展示ビュー

4 … 5月19日「FUNKY DAYS DAY1」の有山じゅんじ

5 … 5月26日イベント「FUNKY DAYS DAY2」大塚善章クインテット

天然表現「投錨するアート」展

2024年7月2日(火)～8月4日(日)

芸術は昨今、様々な表現が「アート」の語で語られているが、なんでも「アート」にされてしまい、「アート」は不鮮明である。「アート」として認識されているほとんどの「アート」とは、エンターテインメント、プロパガンダ、そしてデザインだろう。本展覧会は、郡司ベギオ幸夫(天然知能研究・天然表現)、松本直樹(現代美術)、中村恭子(日本画)を迎え、三者による作品を郡司の「天然知能」の創造モデルから照らしつつ、アートとは何か、創造とは何かを提示した。

関連イベントとしてトークイベント「投錨するアート」を開催した。また、中村が担当する授業「アーツ・プラクシス演習I-1」での学生展覧会に郡司、松本を招き、講評会と学生交流を行った。その模様はアーカイブとしてセンターウェブサイトにて紹介される。

本事業は、自然科学研究者との共同研究・制作、そして新領域開拓などを掲げる研究部門のミッションを見据えた基盤研究課題の一環として立ち上げた。次年度以降も引き続き関連事業が継続される。(中村)



1



2



3

1…松本直樹《きつちよむの壺》シリーズ、2015-2024年

2…郡司ベギオ幸夫

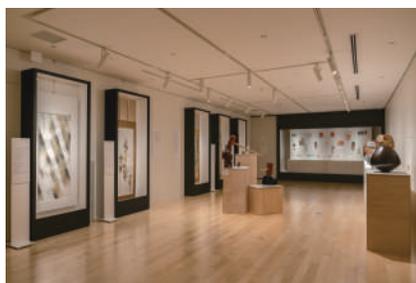
《三人称を迎える眷属の出現：どの一人称でもあり、どの一人称でもない》2024年

3…中村恭子《風景の肉体》シリーズ、2023-2024年

4～6…展示ビュー



4



5



6

企画展 今に生きるラスキン Ruskin Alive

2024年9月20日(金)～10月20日(日)

2024年9月20日から1ヶ月間、大阪大学中之島センター4階ギャラリーにて「今に生きるラスキン」展を開催した。この展覧会は、美学会のテーマにも呼応するように、大阪ラスキン・モリスセンターの協力を得ながら準備をしてきた特別展である。ジョン・ラスキンは、美術批評家としてだけでなく、19世紀英国において社会福祉活動に力を注いだ人物である。本展覧会では、大阪ラスキン・モリスセンターの収蔵資料をとおり、ラスキンの芸術への眼ざしや、社会への関わりや、環境保護への足がかりを紹介した。展覧会ではさらに、ラスキンの設立による聖ジョージ・ギルドや、日本のstudio-Lの取り組みにも注目して、ラスキンの思想がどのように社会活動へと波及してきたかを合わせて紹介した。ラスキンの言葉「生なくて富なし」に導かれて、この理想を具現化しようとする取り組みをとおり、今に生きるラスキンを浮かび上がらせた。(高安)

会期：2024年9月20日～10月20日
場所：大阪大学中之島センター4階展示室
主催：大阪大学中之島芸術センター
協力：大阪ラスキン・モリスセンター、Studio-L、大阪大学美学研究室
監修：横山千晶(慶應義塾大学)
三木はるか(日本女子大学)

第1部 ラスキンの多面体

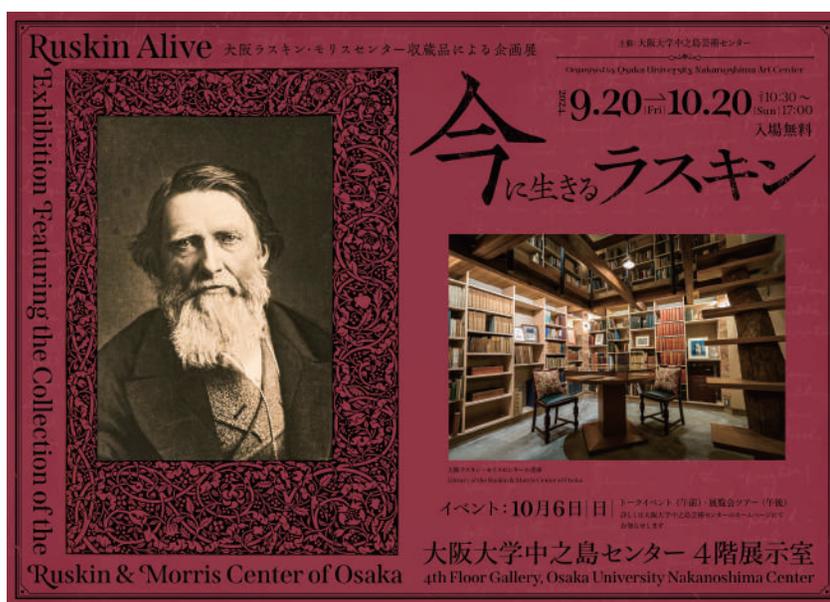
- 1-1 美術批評家ラスキン
- 1-2 社会改良家ラスキン
- 1-3 環境保護家ラスキン

第2部 聖ジョージ・ギルド

- 2-1 ギルドの文化活動
- 2-2 ギルドの社会活動
- 2-3 ギルドの環境活動

第3部 コミュニティ実践

- 3-1 露木コレクション
- 3-2 みんなでつくる
- 3-3 自然にいだかれて



1…ラスキン展1
2…ラスキン展2

展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～ 伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」

2024年11月5日(火)～12月21日(土)

2024年11月5日(火) から12月21日(土)まで、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」を開催した。この展覧会では、現代ではかなり希少となってしまった、家々を廻り、芸を披露して旅を続ける芸能者(いわゆる「門付け」の芸能者)に焦点をあてた。特に、伊勢大神楽講社による伊勢大神楽と阿波木偶(でこ)箱まわし保存会による阿波木偶三番叟まわし・阿波木偶えびすまわしを中心にして、家を廻る芸能について紹介した。獅子頭や衣装、お札、楽器や放下芸の道具など様々な道具類や、人形、箱と天秤棒などを主に展示し、写真パネルや映像による展示も展開した。映像では、二者に加え、黒森神楽についても紹介した。また、中川未子による伊勢大神楽の長持ちイラストや、高橋かほりによって半立体で作成された伊勢大神楽の長持ちも展示された。

展覧会のプレイベントとして、阿波木偶箱まわし保存会による阿波木偶三番叟まわしとえびすまわしの上演および解説、展覧会の内覧会を開催した。また、会期中には、次の3つのイベントを開催した。

ギャラリートーク「伊勢大神楽はどんなくらしをしているの?」では、岩手大学の神野知恵が中心となり展示内容を紹介した。伊勢大神楽実演「神楽が大阪中之島にやってくる!」では、伊勢大神楽・山本源太夫社中による伊勢大神楽の獅子舞の演舞を行った。伊勢大神楽映像「それでも獅子は旅を続ける～山本源太夫社中伊勢大神楽日記～」上映会とオンライン・アフタートークでは、神野作成の映像を鑑賞したのち、アフタートークにて解説をした後、参加者との意見交換も行った。

展覧会開催にあたり、伊勢大神楽講社、阿波木偶箱まわし保存会、東北文映研ライブラリーの協力を得た。(山崎)



1



2



3



4



5

- 1…半立体の長持ち
- 2…長持ちイラスト
- 3…伊勢大神楽の展示
- 4…阿波木偶箱まわしの展示1
- 5…阿波木偶箱まわしの展示2

影絵人形芝居

「シタ妃 大地への帰還」(叙事詩ラーマーヤナより)

2025年2月23日(日・祝日)

上記公演は中之島芸術センター・アートスクエア3階スタジオにて、2025年2月23日(日・祝日)11:00公演と14:30公演の2回行われた。主催は大阪大学中之島芸術センター、共催として①科学研究費プロジェクト基盤B19H01208「東南アジアの現代芸術におけるラーマーヤナの多元的意味に関する研究」(代表者:福岡まどか)、②大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター・IMPACT、③京都大学東南アジア地域研究研究所GCRインキュベーション・プログラム「東南アジア現代芸術の実践に関する考察:上演芸術を中心とした予備的調査」(代表者:福岡まどか)の3つの研究プロジェクトが加わった。また在大阪インドネシア共和国総領事館より後援をいただいた。古代インドの叙事詩『ラーマーヤナ』に基づく独自の物語を創作し、インドネシア・ジャワ島中部の影絵ワヤンをベースに、音楽、語り、ダンスを融合させた上演を行った。上演時間は約1時間40分であった。影絵上演ユニットのマジカマメジカ(人形遣いナン・アナン・ウィチャクソ)を中心に、語り手としてイルボン、もうりひとみが登場、また演奏はジャワガムラングループのダルマ・ブダヤによるもので、その他の賛助出演を得て上演された。公演は2回とも満員となり、上演に対してポジティブな評価が多く見られた(上演後アンケートの結果も含む)。プログラム(登場人物相関図付き)の配布、ミニレクチャーについても好評を得ることができた。学術研究成果に基づく創作作品の上演を広く社会に発信するための機会となった。(福岡)



1



2

『田中照三再発見—上演と展示』

2025年2月8日(土)～2月9日(日)

本企画は、戦後関西演劇・オペラの舞台美術を牽引した田中照三(1913-2018)の創作活動を、上演と展示を通じて再評価する試みである。宝塚歌劇でキャリアを開始した田中は、リアリズムを基調に、日本の情感や構成主義的造形を融合させ、関西の新劇やオペラに革新をもたらした。今回は、近年発見された田中の自筆戯曲の中から、彼自身が脚本・演出・美術を手がけた『乗務員日誌』(1948)を、大阪大学中之島芸術センター3階スタジオにて2月8日と9日の両日において上演した。演出は京都芸術大学の山口浩章氏、美術は同大学の津英輔氏が担当した。2024年2月3日～9日に開催された併設展示では、1950年代から1980年代にかけて田中が手がけた舞台美術の図面・模型・写真・手記等を紹介し、その造形力の多彩な展開を示すとともに、代表作『阿Q正伝』(1982)の舞台装置を再現し、80年代関西新劇の空間的想像力を体感的に提示した。企画立案は永田靖、監修は田中の教え子である堀田充規氏が務め、演出家・俳優・研究者が協働して構成した、舞台美術の記憶と創造をつなぐ企画となった。(永田)



- 1…『乗務員日誌』舞台美術
- 2…『田中照三再発見』展示
- 3…『田中照三再発見』展示
- 4…『田中照三再発見』セミナー
- 5…『田中照三再発見展示場』



小屋掛けの人形芝居 日本とアジア

2025年2月15日(土)～3月16日(日)

本事業は、明治から昭和にかけて日本各地を巡演興行した、東北の片手遣いの人形芝居（活動人形／猿倉人形）と、高知の棒遣い人形（土佐のデコ芝居／西畑人形）を中心に、さらに中華圏や東南アジアの人形芝居を加えて開催された人形芝居の企画展覧会である。今回の展覧会のために、関連資料を所蔵する高知市春野郷土資料館、人形劇の図書館、木偶塾、またその他個人からも協力を得て、豊富な資料で展示内容を構成した。人形芝居が当時活動した姿を、人形本体はもちろん、興行用の絵看板や舞台道具、台本資料など様々な資料で紹介した。日本の人形芝居では、上演に繰り返し使われた影響を窺わせる人形のカシラ（首）や、貴重な絵看板、さらに当時の興行形態を示す長い引幕や幟などを展示し、小屋掛けの空間を一部再現することができた。またアジア地域については、日本と同じように大衆的な人気を得たものや、同じ人形操法の人形芝居を展示することで、日本とアジアの繋がりを示した。

展示会場は展示室のほかに、同じフロアのコモンスペースを利用し、中華圏、東南アジアの人形芝居を展示して、これまでにない展示空間の広い展覧会を構成した。展覧会の関連事業として、公開シンポジウムと人形芝居の上演イベント（庄内出羽人形芝居の公演）を開催し（シンポジウムは別稿に概要を記載）、またアジアの影絵人形芝居（別項に記載）の公演と連携し、展覧会では影絵の人形芝居も展示した。さらに総括として図録冊子も制作した。学内外での連携、協力により、非常に多彩な内容の企画事業が実現できた。（蘭田）



1



2



3



4



5

- 1… 東北の片手遣い人形
- 2… 高知の棒遣い人形遣い
- 3… 中華圏の人形芝居
- 4… 庄内出羽人形芝居の公演
- 5… 東南アジアの影絵人形

〈実演付きトークイベント〉 近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸

2025年3月22日(土)

博物館叢書『ちんどん屋——宣伝・広告と芸能のハブとなる生業』が刊行されたことを記念して、2025年3月22日にイベントを開催した。イベントでは、本書に関連して、仮屋崎郁子(ちんどん通信社)による、近代大阪の「ちんどん屋」前史に関する講演と、藺田郁(大阪大学)による「ちんどん屋」が担う語り芸に着目した講演を行った。講演の前後には、ちんどん通信社による、それぞれに関する演奏や実演、トークなどを交えた内容となった。ステージのみに終始せず、歩く動作も披露し、普段のちんどん屋の一端も披露できた。

ちんどん屋は音楽や扮装、口上や芸能などを活用して人々の注目を集め、宣伝を行う、街の「広告代理業」で、令和の現代でも街中で宣伝を行なっている。また、ちんどん屋については、これまでは音楽に注目を向けて語られることが多かったが、今回のように成立に至る歴史的積み重ねや社会の動き、語り芸に焦点をあてた内容は貴重な機会となった。(山崎)



1… 仮屋崎郁子

2… 藺田郁

3… ちんどん通信社による演奏

4… 演奏しながら退出するちんどん通信社

芸術センター「森村先生講演会」

2024年3月5日(火)、2025年3月23日(日)

森村泰昌特任教授は、1985年にゴッホの自画像に扮した作品を制作して以来、「セルフポートレート」写真を一貫して制作してきた国際的なアーティスト。これまで主に豊中キャンパスなどで講義を行ってきたが、中之島芸術センター開館と中之島センター中2階の写真壁画作品公開を祝して、「スタジオ」にて一般公開の形式となった。「芸術は、まちがっていてもおもしろければよい？」を主題に、2023年度は副題「ゴヤの《カルロス四世の家族》を深読みする」のもと、「生き延びるために芸術は必要か」を論じた。2024年度は副題「実践編 森村泰昌作品《エゴ・シンボシオン》の上映と解題」として、自作自演の映画作品《エゴ・シンボシオン》の上映会と、作者みずからによる映画作品の解題が行なわれた。いずれも満員御礼。主催：大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻アートメディア論コース/大阪大学中之島芸術センター／協力：全学教育推進機構（鈴木）

- 1… 2023年度チラシ
- 2… 2024年度チラシ



1



2

『大野一雄舞踏公演 『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映会

2024年3月8日(金)

慶應義塾大学アート・センター（ポートフォリオBUTOH）との共同主催事業「前衛演劇の探求Vol.1」として、大野一雄の伝説的舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』の初演映像を2024年3月8日に中之島芸術センター3階スタジオにて上映した。1977年に第一生命ホールで初演された本作は、土方巽の演出により世界各地で119回上演された舞踏の金字塔である。スペイン舞踊の革新者アントニオ・メルセへの敬意が、1929年の来日公演を観た大野の体験に基づいて結実している。第一部では、VIC (Video Information Center) の解説を石本華江（慶應義塾大学アート・センター）が行った後に、初演映像を全編上映した。第二部では、小菅隼人（慶應義塾大学）による大野舞踏の解説と、永田靖（大阪大学）とのアングラ演劇や舞踏をめぐる討議を行った。関西でこの映像を鑑賞できる極めて貴重な機会となった。（永田）

- 1… 大野一雄舞踏公演作品研究上演チラシ
- 2… 大野一雄舞踏公演作品研究上演チラシ
- 3… 上演後のセミナー



1



2



3

アイヌのお葬式 映画『アイヌプリ2019埋葬トエペッコタン』 上映&トーク

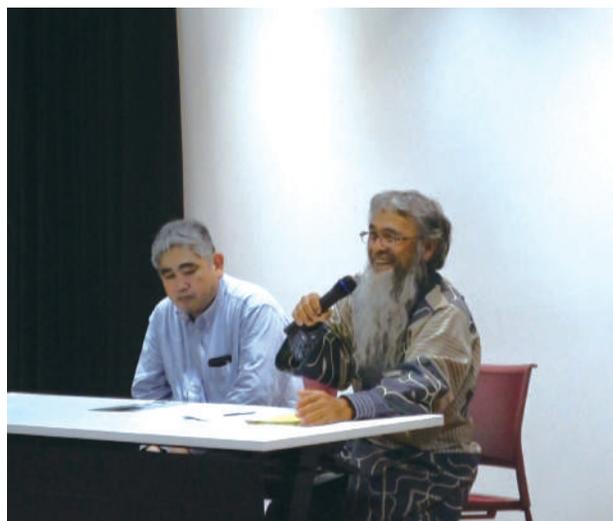
2024年11月23日(土)

2024年11月23日(土)、記録映画「アイヌプリ埋葬2019トエペッコタン」の上映会を行った。この映画は、2019年8月5日に亡くなったアイヌの女性が、同胞によりアイヌの伝統的な土葬でコタンの土に還され、天空へ送られた様子を収めた貴重な記録映画である。上映会後には、アイヌ文化の伝承者である葛野次雄、本映画の監督・藤野知明を招き、トークイベントを行った。会の最後には、本映画およびアイヌの風習について、来場者との意見交換も行った。本イベントの開催にあたり、本宮氷(一般社団法人あぐりの会)、高橋繁行(ルポライター、切り絵画家)の協力を得た。なお、上映会場のロビーには高橋繁行による本映画が題材の切り絵作品を展示した。本会開催にあたり、前後の日程で、ミニ講演会「アイヌに学ぶ 葛野エカシ大いに語る」、「85年ぶりの帰還～アイヌ遺骨 杵臼コタンへ」上映会、高橋繁行アイヌ土葬の切り絵原画展などの各種関連イベントも開催された。(山崎)

1… イベントチラシ

2… ロビーに展示した高橋繁行による切り絵作品

3… 葛野次雄(右)、藤野知明(左)



個人で活動するアーティストのための SNSマーケティング講座&相談会

2024年3月23日(土)

2024年3月23日(土)、大阪市アーティストサポート窓口[なにそうだん]と共同の主催で、SNSマーケティング講座&相談会を開催した。本講座では個人で創作から宣伝まで行う、主に、フリーランスや個人で活動するアーティストに向けて、自らプロモーションするための方法を知る講座として開かれた。ここでは、売上や利益ではなく、SNSでの認知、拡散が第一に置かれた。講師・ゲスト相談員に、佐藤由典(WEBマーケター)を、運営協力には、古谷晃一郎、林慎一郎を迎えた。講座では、まず各種SNSの紹介とそれぞれの活用方法についての講演を行った。その後、ワークを行い、現状を確認しつつSNSを活用する方法を紹介した。各種SNSの特性を把握し、どのSNSに力を入れていくべきか、個人のアーティストそれぞれの得意不得意に合わせたSNSの選び方などについて話があった。講座後には、事前申し込みのあった参加者に向けて、それぞれの活動との関係をもとに個別相談会を行った。(山崎)

1… 佐藤由典

2… 告知用バナー



センター全開催イベント一覧

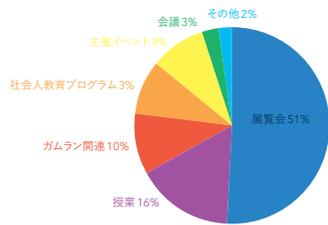
分類	年度	開催日	事業名	連携先	
式典・イベント	2023年	4月30日(日)	中之島センター改修お披露目会(展覧会プレオープン、ガムラン演奏等)		
展覧会	2023年	5月2日(火)～7月30日(日)	開館記念展覧会「アートトリップ・ナカノシマモダン中之島コレクション・アネックス」	①人文学研究科、②総合学術博物館、 ③大阪市立住まいのミュージアム	
		9月6日(水)～9月30日(土)	中村恭子日本画作品展「風景の肉体」	①社会ソリューションイニシアティブ(SSI)	
		9月9日(土)	展覧会記念公開シンポジウム「創造の装置」		
		10月14日(土)～11月19日(日)	総合学術博物館第18回特別展・博物館・豊中市連携事業、中之島芸術センター開館記念「豊中市所蔵 京・大阪 日本絵画の精華 ～花鳥画の名品から俳画の珍品まで～」	①総合学術博物館、②豊中市、③人文学研究科	
		10月25日(水)～2月17日(土)	総合学術博物館 第25回企画展(中之島芸術センター共同主催) 「ちんどん屋 一宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術」	①総合学術博物館	
		11月25日(月)～12月3日(火)	アクセンビリティ・リサーチ・ラボ展	①人文学研究科、②総合学術博物館 ③阪急阪神不動産株式会社、ほか連携多数	
		12月12日(火)～1月21日(日)	「ヤスキチ・ムラカミの世界展 ～オーストラリアに生きた写真家・実業家・発明家～」	①人文学研究科、②総合学術博物館、ほか連携多数	
		2024年	1月19日(金)～1月21日(日)	『ヤスキチ・ムラカミ - 遠いレンズを通して』(上演)	
		2月20日(火)～3月9日(土)	「服部良一と笠置シズ子：花開く大阪音曲」	①服部音楽出版、②笠置シズ子資料室	
		3月9日(土)	トークイベント「昭和アゲウギ伝説：道頓堀から日比谷まで」		
	5月14日(火)～6月9日(日)	糸川耀史写真展『回顧録』			
	5月19日(日)	【展覧会関連】FUNKY DAYS LIVE!!【DAY 1】			
	5月26日(日)	【展覧会関連】FUNKY DAYS LIVE!!【DAY 2】			
	6月1日(土)	【展覧会関連】FUNKY DAYS LIVE!!【DAY 3】			
	6月8日(土)	【展覧会関連】糸川耀史監督作品「東京ダンシング! アフリカ」上映会			
	7月2日(火)～8月4日(日)	天然表現「投錨するアート」			
	7月7日(日)	【展覧会関連】「天然表現：投錨するアート」ワークショップ			
	9月20日(金)～10月20日(日)	今に生きるラスキン	①大阪ラスキン・モリスセンター、②studio-L		
	9月20日(金)	【展覧会関連】今に生きるラスキン展「本に触れるワークショップ(第1回)」			
	10月6日(日)	【展覧会関連】今に生きるラスキン展「本に触れるワークショップ(第2回)」			
10月6日(日)	【展覧会関連】今に生きるラスキン展 展覧会ツアー(計3回)				
10月6日(日)	【展覧会関連】今に生きるラスキン展 トークイベント「自然に還る、生に返す」				
10月12日(土)	【展覧会関連】今に生きるラスキン展「本に触れるワークショップ(第3回)」				
10月12日(土)～12月8日(日)	総合学術博物館第26回企画展、懐徳堂創立300周年記念事業(当センター共催) 「懐徳堂を知っていますか? 一飯大が受け継ぐ大坂町人の学問所一」				
11月5日(火)～12月21日(土)	旅するカミサマ、迎える人々 伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在	①伊勢大神楽講社、②阿波木偶箱まわし保存会 ③東北文映研ライブラリー			
11月4日(月)	【展覧会関連】「旅するカミサマ、迎える人々」展イベント等				
12月6日(金)	【展覧会関連】ギャラリートーク「伊勢大神楽はどなんくらしをしているの?」				
12月7日(土)	【展覧会関連】伊勢大神楽実演「神楽が大阪中之島にやってくる!」				
12月21日(土)	【展覧会関連】伊勢大神楽映像上映会				
2月3日(土)～2月9日(日)	田中照三再発見—上演と展示 展覧会「『阿Q正伝』舞台装置再現」	①日本舞台美術家協会、②大阪芸術大学、③京都芸術大学			
2月8日(土)～2月9日(日)	「田中照三再発見—上演と展示」演劇上演「乗務員日誌」				
2月15日(土)～3月16日(日)	企画展覧会「小屋掛けの人形芝居 日本とアジア」	①人形劇の図書館、②木偶塾、③高知市春野郷土資料館			
2月23日(日)	【展覧会関連】影絵人形芝居「シター-妃 大地への帰還」				
3月2日(日)	【展覧会関連】公開シンポジウム「仮設の人形芝居—交又する娯楽と民俗」				
3月15日(土)	【展覧会関連】狭倉系の人形芝居上演「東北の手選い人形 庄内出羽人形芝居」				
研究会	2023年	7月4日(火)	「AIと芸術の創作・評価」研究会		
		8月21日(月)	中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える vol.1」	①社会技術共創研究センター(ELSIセンター)	
		11月20日(月)	中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える vol.2」	①社会技術共創研究センター(ELSIセンター)	
	11月25日(土)	公募型研究プロジェクト研究会(高安先生)			
	2024年	3月15日(土)	中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える vol.3」	①社会技術共創研究センター(ELSIセンター)	
	3月15日(土)	公開研究会「芸術における『共創』概念の再検討」			
	3月15日(土)	「災と藝の TELESOPHIA—災禍における芸術・芸能と『靈性』」			
3月15日(土)	ELSI共創プロジェクト「アート×ELSIを考える」				
講演会	2023年	11月25日(土)	連続講座「文楽の制作—古典芸能における制作の役割と意義」(第1回)		
		12月10日(日)	連続講座「文楽の制作—古典芸能における制作の役割と意義」(第2回)		
2024年	2月29日(木)	特別講演「日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置」第1回「舞台衣裳デザインの魅力」			
講演会	2024年	3月5日(木)	森村泰昌 大阪大学特任教授講演会	①人文学研究科、②全学教育推進機構	
		3月20日(水)	特別講演「日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置」第2回「柴田隆弘の舞台美術」		
2025年	2月12日(水)	特別講演「バーチャルリアリティと演劇：仮設性の問題に向けて」(第1回「モノを創っていく」)			
	2月15日(土)	特別講演「バーチャルリアリティと演劇：仮設性の問題に向けて」(第2回「劇場⇄密室⇄イメージ」)			
	3月23日(日)	森村泰昌大阪大学特任教授 講演と上映会	①人文学研究科、②全学教育推進機構		
シンポジウム	2023年	3月15日(金)	シンポジウム「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」	①社会技術共創研究センター(ELSIセンター)	
	2024年	9月7日(土)	総合学術博物館・大阪コミュニティ協会主催シンポジウム(当センター共催) 「大阪的って何? 浪花百景・未来景」		

	10月26日(土)	懐徳堂創立300周年記念事業シンポジウム(当センター共催)	
2025年	3月7日(金)～3月8日(土)	第2回シンポジウム「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」	①社会技術共創研究センター(ELSIセンター)
音楽公演	2023年 9月10日(日)	「ピアノびらき：ヴィルヘルム・ベッパのペビー・グランド」	
演劇上演	2023年 10月21日(土)～10月22日(日)	『中之島デリバティブII』	①人文学研究科、②総合芸術博物館
上映会	2023年 3月8日(金)	大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンテナ頌』研究上映会	①慶應義塾大学アート・センター
	2024年 11月23日(土)	「アイヌのお葬式」映画上映会	①一般社団法人あぐりの会
公演・上演	2024年 9月27日(金)～9月28日(土)	『中之島デリバティブIII』(演劇上演)	①人文学研究科、②総合芸術博物館
	2025年 2月14日(金)～2月15日(土)	公演「人間を脱出したモノたちへ」	①人文学研究科、②総合芸術博物館、ほか連携多数
イベント等	2023年 2月25日(土)	「水都スウィング今昔・大実演会」	
	2023年 11月5日(火)	ルイジ・ルッソ国際音楽コンクール2023日本一般審査会(当センター共催)	
	2024年 3月20日(水)	大阪大学人間科学研究科未来共創センターIMPACTオープンプロジェクト「多様性の中のウェルビーイングー芸術・雇用・社会」(当センター共催)	
	3月23日(土)	個人で活動するアーティストのためのSNSマーケティング講座&相談会	①大阪市
	3月27日(水)	アイザック・ジュリアン来日記念アーティストトーク(当センター協力) (主催：エスパスルイ・ヴィトン大阪、クリエイティブアイランド中之島実行委員会)	
	10月12日(土)	映画懇談会 知的障害者を主体とする映画制作	
	12月13日(金)～12月15日(日)	さぁルおにクルとらいアル	①人文学研究科、②総合芸術博物館、ほか連携多数
	12月14日(土)～12月15日(日)	kagurabu公演「kagurabu 中之島・神楽remix「まつりのにわ」」	①kagurabu、②かぐらぶ、③エイチエムビー・シアターカンパニー
2025年	1月13日(月・祝)	トークイベント「アートとキャリアを考える」	①人文学研究科、②総合芸術博物館、ほか連携多数
	3月10日(月)	トークイベント「食べて肥って——熊本県八代市坂本町のお祭りとお祭り」	
	3月22日(土)	近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸	

センター利用者数

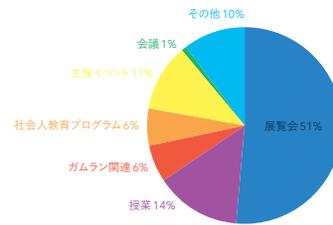
2023年度

展覧会	5,645
授業	1,794
ガムラン関連	1,134
社会人教育プログラム	984
主催イベント	960
会議	329
その他	265
	11,111



2024年度

展覧会	7,200
授業	2,000
ガムラン関連	800
社会人教育プログラム	900
主催イベント	1,600
会議	200
その他	1,400
	14,100



業績

著書・論文・その他テキスト

*1 … 中之島芸術センター刊行物
*2 … 査読付

著書

	その他特筆すべき事項	*1	*2
Madoka Fukuoka et al., Madoka Fukuoka, "Ramayana Theater in Contemporary Southeast Asia" Jenny Stanford Publishing, Singapore, 2023.1			
Iryna Kastylianchanka, Ed. by Mujica Bárbara, "Beyond Western Approaches to Theater globalism: The Space of Performance through the Interaction of Russia and Japan", Staging and Stage Décor: Perspectives on European Theater 1500-1950, Wilmington: Vernon Press, Chapter 13, pp.237-259, 2023.3	ISBN: 978-1648895425		○
園田郁、山崎達哉『ちんどん屋：宣伝・広告と芸能のハブとなる生業』大阪大学出版会、pp.79-83、2024年12月			
Iryna Kastylianchanka, Ed. by Ian McCormick and Saptarshi Mallick, "De-Contextualization in Contemporary Japanese Stagings of Shakespeare's Plays", Woke Shakespeare: Rethinking Shakespeare for a New Era, Chapter 6, pp.117-131, 2024.12	ISBN: 9798304153065		○
Madoka Fukuoka et al., Madoka Fukuoka, "Contemporary Performing Arts in Southeast Asia" Working Paper Series No.3 GCR, Kyoto University, 2025.3			
山崎達哉『ちんどん屋——宣伝・広告と芸能のハブとなる生業(大阪大学総合芸術博物館叢書21)』大阪大学出版会、2025年12月			

中村恭子、福島知己編『フーリエの未来の肉体としての反古墳——いや、墓とは?』水声社、シャルル・フーリエの新世界、pp.391-420、2024年7月			
Nakamura, K., Ryoko, N. & Tadashi, Y. ed., "Affectus, or Carving Emptiness into the Body" Kyoko University Press; Trans Pacific Press, Affectus, pp.1-26			○

論文

	その他特筆すべき事項	*1	*2
永田靖、小菅隼人「前衛は瑞々しい後衛たりうるか—『中之島デリバティブIII』をとおして」慶應義塾大学アート・センター、Booklet、Vol.32、pp.10-25、2025年2月		○	○
永田靖「場所の病—金森マユ『ヤスキチ・ムラカミ 遠いレンズを通して』を中心に」大阪大学人文学研究科演劇学研究室、演劇学論叢、第24号、pp.1-17、https://doi.org/10.18910/100614%E3%80%80、2025年3月		○	
永田靖「中之島デリバティブ—記録と考察(1)」大阪大学人文学研究科演劇学研究室、演劇学論叢、第23号、pp.1-11、2025年3月		○	
田中均「シラーはライフスタイルの哲学者か? マザーン/リグルによる『美的教育書簡』解釈をめぐる」、シェリング年報、31巻、pp.65-77、https://doi.org/10.32297/schellingjahrbuch.31.0_65、2023年7月			○
藺田郁「明治半ばから大正初期における浪花節芝居(節劇)の展開—都市部の興行と上演形態の変化をめぐる」日本伝統音楽研究センター、日本伝統音楽研究、20号、pp.1-11、2023年8月			○
郡司ベギオ幸夫、中村恭子「当事者性を実現する天然知能のアート」、映像情報メディア学会誌、no. 5, Vol. 77、pp.591-593、2023年9月	招待		○
徳山祐輝、中村恭子「外部へ通ずるリミナルスペース—ノスタルジアにおけるトラウマ構造と芸術的展開—」ジャーナル共創学、Vol. 6, No. 1、pp.1-12、2025年1月	https://nihon-kyousou.jp/cocreationology/vol6_no1/Cocreationology_6-1-1.pdf		○
Yasushi Nagata, Mitsuya Mori "Politics and Theatre in Asia: An Introductory Overview" Japanese Society for Theatre Research, English Journal of Japanese Society for Theatre Research, Vol.4, issue 1, pp.89-96, https://doi.org/10.18935/ejstr.4.1_89, 2025.3			○
藺田郁・藤本佳子・大和賛「日本古楽芸能における音楽の生成過程を意識した小学校音楽科授業デザイン」大阪教育大学教科教育学研究会、教科教育学論集、23号、pp.1-16、2025年3月			
藺田郁、細井尚子「芝居のフシ：節劇から浪曲漫才まで／戯劇中の音調——從節劇到浪曲漫才」立教大学アジア地域研究所長、東アジア文化圏の「自」文化—グローバル化による大衆的な上演文化の多様性と一様性 東アジア文化圏の「自」文化——グローバル化帶來の大衆表演文化的多様性と均質性、pp.172-194、2025年3月			
Nobuhiro ITO, Rachel Beckles Willson, Gergely Fazekas (eds) "Virág az ember... Mijakónak, and who is Mijako?" Brepols, Perspectives on the music of György Kurtág Performance, Language and Memory, 2025.8	印刷中 (https://www.brepols.net/products/IS-9782503618661-1に広告掲載)		○

その他テキスト

	その他特筆すべき事項	*1	*2
中村恭子・郡司ベギオ幸夫・松本直樹、天然表現「投錨するアート」大阪大学中之島芸術センター企画展覧会図録、大阪大学中之島芸術センター、担当執筆箇所:「はじめに」(pp.3-4)「展示」(14-19)、2025年3月		○	
永田靖「中之島芸術センター—始まる—その経緯と展望」大阪大学文学研究科アート・メディア論コース、Arts&Media、Vol.13、pp.219-223、2023年8月		○	
藺田郁・福岡まどか・山下一夫・淵見英明・鈴木聖子、図録「小屋掛けの人形芝居 日本とアジア」大阪大学中之島芸術センター、2025年3月		○	
中村恭子「ワークショップ フーリエをどう読むか」日本フランス語フランス文学会、Cahier 31号、p. 27、2023年3月	招待		
西井奨、美学会西部会 研究発表要旨:ワレリウス・マクシムス『著名言行録』における弁論術と美德、美学会、美学、73.1、105、2023年6月			
田中均、【書評】久保隆一・小田部胤久編『(新装版) シェリング著作集 第2巻 超越論的観念論の体系』(久保隆一、深谷太清、前田義郎、竹花洋佑、守津隆、植野公稔、小田部胤久 訳、文庫秋栄、2022年)、シェリング年報、31巻、pp.135-138、https://doi.org/10.32297/schellingjahrbuch.31.0_135、2023年7月			
永田靖「私たちはアフリカからどこへ行くのか」関西障害者定期刊行物協会、IMAJU、Vol.87、pp.44-48、2024年1月			
山崎達哉、大阪大学総合学術博物館特別展「くるみすいでGO! どうする★バリバリア」、大阪大学総合学術博物館、大阪大学総合学術博物館 年報 2022、担当執筆箇所:「3. 展覧会報告III」(pp.25-32)、2024年2月			
福岡まどか 執筆・編集「シター妃 大地への帰還」阪東印刷紙器工業所 印刷、全22頁、2024年2月			
山崎達哉、第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に生きるハブ(集録/中継/交流) 芸能—」、大阪大学総合学術博物館、大阪大学総合学術博物館ニュースレター まちかねミュージアム Vol.7、担当執筆箇所:「展覧会報告」(pp.25)、2024年3月	公演プログラム		
福岡まどか、藺田郁 編著、企画展覧会「小屋掛けの人形芝居 日本とアジア」展示カタログ、2024年3月	展示カタログ		
山崎達哉・伊東信宏、大阪大学中之島芸術センター開館記念展覧会「アートトリップ・ナカノシマ—モダン中之島コレクション・アネックス」、大学博物館等協議会、MUSEO ACADEMIAE 第26号 大学博物館等協議会ニュースレター、担当執筆箇所:「大阪大学中之島芸術センター開館記念展覧会「アートトリップ・ナカノシマ—モダン中之島コレクション・アネックス」」(pp.10-11)、2024年6月			
中村恭子「ばんの原風景」福音館書店、月刊こどものとも、12月号825号、折り込みふろく、2024年12月			
伊東信宏、山崎達哉「ブルガリアのちんどん屋——リマフ兄弟と「楽師市場」」大阪大学総合学術博物館叢書 21『ちんどん屋: 宣伝・広告と芸能のハブとなる生業』、pp.71-75、2024年12月			
伊東信宏、コパチンスカヤ&カメラータ・ベルン演奏会プログラムノート、トッパンホール、2024年12月			
伊東信宏、コパチンスカヤ&カメラータ・ベルン演奏会プログラムノート、京都コンサートホール、2024年12月			
伊東信宏「負けるピアノ」岩波書店、『思想』、1209 (2025年1月号)、2-6頁、2025年1月	デジタル版は https://tanemaki.iwanami.co.jp/posts/8534 に掲載		
山崎達哉、大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に生きるハブ(集録/中継/交流) 芸能—」、大阪大学総合学術博物館、大阪大学総合学術博物館 年報 2023、担当執筆箇所:「2. 展覧会報告III」(pp.15-32)、2025年2月			
福岡まどか 執筆・編集「シンタ妃 大地への帰還」阪東印刷紙器工業所 印刷、全33頁、2025年2月	公演プログラム		
伊東信宏「井上道義 & 京都市交響楽団」『朝日新聞』、令和6年6月27日夕刊			
伊東信宏「尾高忠明指揮、大阪フィル マラー: 交響曲第2番「復活」、『朝日新聞』、和6年8月8日夕刊			
伊東信宏「幸運なニアミス」トッパンホール、『トッパンホール・プレス』、2025年10月			

学会などにおける発表・講演

*1 … 中之島芸術センター主催 (=主)、共同主催 (=同)、共催 (=共)、協力の有無 (=○)、芸術センター事業関連 (=関)
*2 … 査読付
*3 … 発表形式。口頭 (=口)、ポスター (=ポ)

国内・国際学会

年度	開催日	発表者・タイトル	学会名・開催地	その他特筆すべき事項	*1	*2	*3
2023年	12月23日	永田靖「金森マユとヤスキチ・ムラカミ」	近現代演劇研究会、大阪大学中之島芸術センター		関		口

2024年	7月18日	Yasushi Nagata, "Photoplay as Mourning"	International Federation for Theatre Research, Annual Conference, Our States of Emergency, Theatres and Performances of Tragedy, Manila, Philippine, University of Philippine, Diliman	関	○	□
	9月25日	Yasushi Nagata, "An Introduction: Nose Joruri Theatre, Pre-Theatre Introductory Lecture"	LXXXVIIe Session de la Societe International Fernand De Visscher pour l'Historie des Droits de l'Antiquite, Nose Joruri Theatre, Nose, Osaka	招待	共	□
2025年	3月10日	Yasushi Nagata "Singing in the Original Language: On Contemporary Japanese Multilingual Performances in 1990's"	Asian Theatre Research Colloquium 2025, Theater Research Exchange: Japan and Vietnam, National Hanoi Academy of Theatre and Cinema, Hanoi, Vietnam	関	○	□
2023年	5月20日	中村恭子「風景の肉体：ボグボディ」	共創学会第一回「共創する時空」研究会、日立シビックセンター、茨城			□
	6月3日	西井 奨「ウァレリウス・マクスィムス『著名言行録』8.9.1のValeriについて」	日本西洋古典学会 第73回大会、獨協大学			○ □
	6月17日	中村恭子「フーリエの無限小概念で考える共創」	第18回共創学研究会「当事者としての共・創」、オンライン	招待		□
2023年	6月22日～6月23日	山崎達哉「アートトリップ・ナカノシマーモダン中之島コレクション・アネックス」	第26回大学博物館等協議会・第18回日本博物科学会、北海道大学、北海道			ボ
	7月22日	中村恭子「書き割りの風景・肉体」	民族芸術学会第168回研究例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	招待		□
	7月25日	Yasushi Nagata "Myth, Mythmaking & Performance: Opening Remark"	Asian Theatre Working Group, International Federation for Theatre Research, 2023 Annual Conference, Accra, Ghana, University of Ghana			□
	10月10～10月13日	Iryna Kastylianchanka "Cross-cultural Shakespeare in Contemporary Japanese Theatre"	The 4th Kyoto Conference on Arts, Media & Culture (KAMC2023), Kyoto Research Park, Kyoto, Japan			□
	11月	Madoka Fukuoka "Contemporary Creative Artworks Based on wayang: Focusing on Ramayana Theater in Nusantara"	The 6th ICPA(International Conference of Performing Arts), Yogyakarta, Indonesia			□
	11月10日	Iryna Kastylianchanka "Beyond a Knowledge of Ourselves toward an Understanding of Alter Ego, or Androids in contemporary Japanese theatre"	International Conference Theatre about Science, University of Coimbra, in Coimbra, Portugal			○ □
	12月10日	中村恭子、郡司ベギオ幸夫「風景の肉体」	共創学会第7回年次大会：共創する時空、いま・ここ、日立シビックセンター、茨城			○ □
	12月8日～12月10日	中村恭子「風景の肉体」	共創学会第7回年次大会：共創する時空、いま・ここ OS/WS 企画セッション「アートの転回：『わたし』における世界の感じ方」、日立シビックセンター、茨城			○ 映
	12月10日	徳山祐羅、中村恭子「空白としての現在-メロンクリームソーダから-」	共創学会第7回年次大会：共創する時空、いま・ここ、日立シビックセンター、茨城			○ □
	12月15日	中村恭子、郡司ベギオ幸夫「湿地遺体の書き割り構造」	第24回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SIZ2023)、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター、新潟			○ □
2024年	1月	園田都「北陸・中部地域における盲人の語り物芸能「文弥節」」	盲僧琵琶共同研究会「盲僧琵琶の語り物伝承と『平家物語』成立過程に関する総合的研究」、大阪大学中之島芸術センター、大阪			□
	1月11日	永田靖「大学と演劇」	西日本劇作の会「総会・研究会」、劇団大阪	招待		□
	3月	園田都「土佐の民俗音楽」：民博所蔵資料の活用に関わる調査と報告」	国立民族学博物館共同研究会「民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化」、国立民族学博物館、大阪			□
	3月24日	Yasushi Nagata "Politics and Theatre in Asia"	Tomoko Saito Memorial Colloquium of Asian Theatre, "Politics and Theatre in Modern Asia", Meiji University, Tokyo, Japan	招待		□
	6月	園田都「大阪大学中之島芸術センター企画展「服部良一と笠置シズ子：花開く大阪音曲」」	第19回日本博物科学会、琉球大学、沖縄			□
	7月	Madoka Fukuoka "Ramayana Theater in Contemporary Southeast Asia"	ICAS(International Convention of Asian Scholars)13, Surabaya, Indonesia			○ □
	9月28日	中村恭子「具象化する日常：日常が日常としてあらわになるとき」	第17回内部観測研究会・第38回計測自動制御学会SI部門共創システム部会研究会、同志社大学、京都			□
	10月5日	西井 奨「イアソン・ヒュブシビュレ・メディア・テセウス・アリアドネ ——ギリシア神話における時系列上の矛盾をオウィディウスはどう処理したか」	筑波大学神話学研究会、筑波大学東京キャンパス			□
2024年	10月18日	Ясуси Нагата "Несколько слов по теме конференции 'МЕТАФИЗИКА ТЕАТРА'"	Барбовские чтения – 2024 Научная конференция: МЕТАФИЗИКА ТЕАТРА, К 85- летию Театроведческого факультета, Александринский театр, Санкт - Петербург, Россия.	オンライン、招待		□
	11月	園田都「芝居のフシ：節劇から浪曲漫才まで／表演的聲腔：從節劇到浪曲漫才」	東アジア大衆演劇国際シンポジウム「東アジア文化圏の「自」文化—グローバル化による大衆的な上演文化の多様性と一様性／東アジア文化圏の「自」文化——全球化帶來的大眾表演文化的多樣性與均質性」、大阪大学中之島芸術センター、大阪			□
	12月	コンヴィーナー「パネルディスカッション 東南アジアの現代アートパフォーマンスの実践を対象とする予備的考察」	東南アジア学会、筑波大学			○ □
	12月15日	徳山祐羅、中村恭子「異・現実への誘い-潜在するもの-」	共創学会第8回年次大会：共創テック、早稲田大学、東京			○ □
	12月21日	イリーナ・カスティランチャカ「現代演劇と技術：AIを用いた戯曲の創作」	近現代演劇研究会12月例会、大阪大学中之島芸術センター			○ □
2025年	3月10～3月11日	Kastylianchanka Iryna "Contemporary Japanese theatre: from on-stage robots to performances using VR technology"	Asian Theatre Research Colloquium 2025, Theater Research Exchange: Japan and Vietnam, National Hanoi Academy of Theatre and Cinema, Hanoi, Vietnam			○ □

その他の発表・講演

年度	開催日	発表者・タイトル	学会名・開催地	その他特筆すべき事項	*1	*2	*3
2023年	8月17日	永田靖「金森マユからヤスキチ・ムラカミへ」	中之島に艶を放つサマースクール、大阪大学中之島芸術センター		主		
	8月	園田都「聴くを拓く一人形芝居の声と言葉のカタチ」	大学博物館と共創するアート人材育成プログラム「艶を放つII」サマースクール、大阪大学中之島芸術センター、大阪		主		□
	9月9日	中村恭子・郡司ベギオ幸夫、伊東信宏 *クロストークのため講演タイトル無し	大阪大学中之島芸術センター開館記念 中村恭子日本画作品展「風景の肉体」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	主		□
	11月23日	永田靖、金森マユ「ヤスキチ・ムラカミとオーストラリアの日系移民史と現代」	「ヤスキチ・ムラカミの世界展」セミナー、「中之島に艶を放つ」プログラム、大阪大学中之島芸術センター		主		
2024年	1月20日	永田靖、金森マユ、佐和田啓司、山口浩章「ヤスキチ・ムラカミと金森マユ」	『ヤスキチ・ムラカミ 遠いレンズを通して』セミナー、大阪大学中之島芸術センター		主		□
	3月8日	永田靖、小菅隼人、石本華江「『ラ・アルヘンチーナ頌』とその時代」	前衛演劇の探求Vol.1 大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映、大阪大学中之島芸術センター		主		□
	7月	松本直樹・郡司ベギオ幸夫・中村恭子 *クロストークのため講演タイトル無し	「天然表現：投錯するアート」ギャラリートーク、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	主		□
	12月21日	田中均「『美的国家』はいかにして『実現』するか——ケスター『主権としての自己』における美的自律性批判をめぐって」	共創芸術プロジェクト「芸術における『共創』概念の再検討—美学理論・美術批評・現代芸術実践からのアプローチ」、大阪大学中之島芸術センター、大阪		主		□

2025年	3月7日	田中均「生成AIを用いるとき、芸術家はなにを達成するのか—Anthony Crossの生産パラダイム／探求パラダイム論を中心に—」	第2回「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム、大阪大学中之島芸術センター、大阪	主	口	
	3月8日	中村恭子「風景に否定的アンテナを構成する」	第2回「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム、大阪大学中之島芸術センター、大阪	主	口	
	3月8日	Iryna Kastylianchanka, Thomás Rodrigues Crespo "Challenges in creating documentary play using AI", 「AIを用いたドキュメンタリー台本 創作の課題」	第2回「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム、大阪大学中之島芸術センター、大阪		口	
2023年	3月	藺田郁「日本の人形芝居 東北の片手遣い人形 高知の棒遣い人形」	仮設の人形芝居 交差する娯楽と民俗、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	主 口	
	3月	福岡まどか「インドネシアの人形芝居」	公開シンポジウム「仮設の人形芝居 交差する娯楽と民俗」、中之島芸術センター スタジオ		主 口	
	6月	中村恭子、他出品作家 *クロストークのため講演タイトル無し	「第5回メタモルフォーシス展」アーティストトーク、82ギャラリー、長野		招待講演	口
	10月	伊東信宏、渡辺浩司、鄭実香、山崎達哉「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」	令和5年度 文化庁「大学における文化推進事業」事業実施報告会、赤坂スターゲートプラザ、東京		ボ	
	11月	藺田郁「これまでのにわか—周辺の芸能・人」	南河内の芸能「にわか」実演とシンポジウム、すばるホール	企画	口	
	12月9日	田中均「ニーチェとシアトロクラシー」	美学会西部会第346回研究発表会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	協力：大阪大学社会技術共創研究センター	口	
	2024年	2月	中村恭子、他出品作家 *クロストークのため講演タイトル無し	もんぜん千年祭アーティスト・トーク：「創造性はどこからやってくるか?」、善光寺大勧進紫雲閣、長野	招待講演	口
		2月23日	中村恭子・郡司ベギオ幸夫 *クロストークのため講演タイトル無し	「BOG BODY—召喚される身体」ギャラリートーク、Art Space Kimura ASK?、東京	招待講演	口
		3月20日	永田靖、鈴木京子、森田かずよ、山中浩司、山田陽子「多様性の中のウェルビーイング—芸術・雇用・社会」	大阪大学人間科学研究科未来共創センター IMPACT オープンプロジェクト、大阪大学中之島センター	招待	口
		6月14日	永田靖「戦争と復興の演劇」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター		口
7月11日		永田靖「新劇」と日本回帰	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター		口	
8月6日		伊東信宏「人形オペラ『ペドロ親方の人形芝居』を浄るり人形で」	ONCC 懐徳堂記念会協力講座、豊中市民文化芸術センター		口	
8月8日		永田靖「冷戦とアメリカの劇」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
9月12日		永田靖「アンクラ演劇とアジア」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
10月		伊東信宏、渡辺浩司、鄭実香、山崎達哉「中之島に聴を放つIII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」	令和6年度 文化庁「大学における文化推進事業」事業実施報告会、霞が関プラザホール、東京		ボ	
10月10日		永田靖「インターカルチャリズム演劇と日本」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
11月14日		永田靖「地域社会と演劇」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
12月12日		永田靖「静かな演劇」と停滞の時代」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
12月27日		田中均「Can empathy serve as an alternative approach to aesthetic evaluation?」	Taiwan and Japan Exchange Forum: Inclusive arts and the curation aesthetics of museums、国立台湾藝術大学、台北	科学研究費補助金・基金(B)「国立美術館における障害者等々の芸術に対するキュレーションの最適化」	口	
2025年		1月9日	永田靖「震災と環境」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口
	2月	中村恭子ほか出品作家×長野県立美術館長 笠原美智子 *クロストークのため講演タイトル無し	もんぜん千年祭2025 アーティスト・トーク：女性アーティストたちが今、話したいこと、聞きたいこと@善光寺、善光寺大勧進紫雲閣、長野	招待講演	口	
	2月13日	永田靖「グローバリゼーションと移民の劇」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	
	3月	藺田郁「近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸」	近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸、大阪大学中之島芸術センター、大阪		口	
	3月13日	永田靖「多文化主義と演劇の未来」	大阪大学せんばアカデミー、船場生涯学習センター	招待	口	

イベントの企画開催、参加など (社学共創以外)

*1…中之島芸術センター関連の有無(=○)
*2…中之島芸術センター主催(=主)、共同主催(=同)、共催(=共)、協力(=協)

イベント

年度	開催日	発表者・タイトル	イベント名・開催地	その他特筆すべき事項	*1	*2
2023年	5月2日～7月30日	山崎達哉、展覧会「アートトリップ・ナカノシマ——モダン中之島コレクション・アネックス」	中之島芸術センター開館記念展覧会「アートトリップ・ナカノシマ——モダン中之島コレクション・アネックス」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主
	7月8日	檜皮一彦、伊東信宏、永田靖、渡辺浩司、橋爪節也、岡田裕成、高安啓介、古後奈緒子、鈴木聖子、伊藤謙、横田洋、鄭実香、山崎達哉「オープニング・セミナー」	統括セッション、大阪大学豊中キャンパス	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	7月9日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「アートマネジメント講座I、II」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	7月17日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「レクチャー「アクセシビリティ概論—アート、都市、消費社会、福祉そのほか—」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	8月12日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「フィールドワーク」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	8月21日	イリーナ・カスティヤンチャカ「ドキュメンタリー演劇とAI—相互作用の可能性」	中之島芸術センター・ELSIセンター 共創企画「アート×ELSIを考える vol.1」研究会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会担当(イベントの企画開催)	○	主
	8月26日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「企画制作演習I、II」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	8月27日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「アプリケーション演習I、II」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	9月3日	橋爪節也、山崎達哉「中之島周遊」クルーズ」	〈場所のナラティブ〉「都市のアルケオロジー『中之島デリバティブII』」B、乗船ツアー (大阪市内)	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	9月6日～9月30日	中村恭子、《反古墳》シリーズほか20点	大阪大学中之島芸術センター開館記念 中村恭子日本画作品展「風景の肉体」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、出品	○	主
	9月13日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「企画会議」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主

9月15日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「企画会議」	〈臨床のアート〉「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
10月21日～10月22日	林慎一郎、永田靖他「中之島デリバティブII」	「中之島デリバティブII」、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、レクチャー	○	主	
10月25日～2月17日	山崎達哉、展覧会「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、大阪大学総合学術博物館、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催	○	主	
10月26日	ちんどん通信社、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、石橋商店街周辺、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主	
10月29日	橋爪節也、山崎達哉「『毛馬開門』通行クルーズ」	〈場所のナラティブ〉「都市のアルケオロジー『中之島デリバティブII』」、乗船ツアー(大阪市内)	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月	園田郁・後藤静夫・細田明宏「大阪大学中之島芸術センター 連続講座 文楽の制作—日本の古典芸能における制作の役割と意義」	大阪大学中之島芸術センター「連続講座 文楽の制作—日本の古典芸能における制作の役割と意義」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主	
11月10日	山崎達哉「『こーばへ行く!』見学」	〈日常のポイエティック〉「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月13日	ちんどん通信社、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、中之島周辺、大阪	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月16日	林幸治郎、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」ギャラリートーク」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、大阪大学総合学術博物館、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主	
11月16日	林幸治郎、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」ギャラリートーク」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、大阪大学総合学術博物館、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主	
11月17日	山崎達哉「『こーばへ行く!』見学」	〈日常のポイエティック〉「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月18日	山崎達哉「『こーばへ行く!』見学」	〈日常のポイエティック〉「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月20日	赤坂亮太・内藤 智之	中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える vol.2」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会担当(イベントの企画開催)	○	主	
11月25日～12月3日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、アクセシビリティ・リサーチ・ラボ展	アクセシビリティ・リサーチ・ラボ展、NU茶屋町 STAND PARK、大阪	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
11月28日	ちんどん通信社、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、箕面駅周辺、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主	
12月	園田郁・後藤静夫・細田明宏「大阪大学中之島芸術センター 連続講座 文楽の制作—日本の古典芸能における制作の役割と意義」	大阪大学中之島芸術センター 連続講座 文楽の制作—日本の古典芸能における制作の役割と意義、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主	
12月3日	ちんどん通信社、山崎達哉「ちんどん通信社さんとのトークショーとワークショップ」	〈日常のポイエティック〉「街との対話」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主	
12月9日～1月22日	金森マユ、永田靖、ヤスキチムラカミの世界展	ヤスキチムラカミの世界展、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、制作、セミナー	○	主	
2023年	12月11日	林幸治郎、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」ギャラリートーク」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、大阪大学総合学術博物館、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主
	12月11日	林幸治郎、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」ギャラリートーク」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、大阪大学総合学術博物館、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主
	12月12日～1月21日	「ヤスキチ・ムラカミの世界展 ～オーストラリアに生きた写真家・実業家・発明家～」展、大阪大学中之島芸術センター、大阪	参加(制作・設営)	○	主	
	12月18日	ちんどん通信社、山崎達哉、展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、川西能勢口駅周辺、兵庫	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主
2024年	1月19日～21日	「ヤスキチ・ムラカミ - 遠いレンズを通して」上演とセミナー、大阪大学中之島芸術センター、大阪	参加(制作・設営)	○	主	
	2月8日	ちんどん通信社、山崎達哉、「展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、池田駅周辺、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主
	1月20日～1月22日	金森マユ、山口浩章、永田靖「ムラカミヤスキチ 遠いレンズを通して」	「ムラカミヤスキチ 遠いレンズを通して」、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、制作、セミナー	○	主
	2月10日	檜皮一彦、伊東信宏、永田靖、渡辺浩司、橋爪節也、岡田裕成、高安啓介、古後奈緒子、鈴木聖子、伊藤謙、横田洋、鄭実香、山崎達哉「クロージング・シンポジウム」	統括セッション、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
	2月15日	ちんどん通信社、山崎達哉「展覧会「ちんどん屋」宣伝活動」	大阪大学総合学術博物館 第25回企画展「ちんどん屋—宣伝・広告に活きるハブ(集積/中継/交流)芸術—」、石橋商店街周辺、大阪	企画主催、大阪大学総合学術博物館と共同主催、展覧会「ちんどん屋」関連イベント	○	主
	2月29日	高橋佳代・イリーナ・カスティランチャカ「『舞台衣裳デザインの魅力』」	特別講演「日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置」大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○	主
	3月2日	福岡まどか他「シーター紀 大地への帰還」	「シーター紀 大地への帰還」、大阪大学21世紀環徳堂スタジオ	上演会	○	主
	3月8日	小菅隼人、石本華江、永田靖「大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映会」	大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映会、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、セミナー司会	○	主
	3月15日	あごうさとし・山本裕紹・John Smith・鹿野 祐介・長門 裕介	「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○	主
	3月20日	柴田隆弘「柴田隆弘の舞台美術」	特別講演「日本の現代演劇における衣裳デザイン・舞台装置」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○	主
	3月23日	佐藤由典、古谷晃一郎、林慎一郎、山崎達哉「アーティストのためのSNSマーケティング講座&相談会」	「アーティストのための SNS マーケティング講座&相談会」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	○	主	
	5月14日～6月9日	輪島裕介、山崎達哉、展覧会「糸川耀史写真展「回顧録」」	糸川耀史写真展「回顧録」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主
	5月19日	山崎達哉「『FUNKY DAYS LIVE!!』DAY1」	糸川耀史写真展「回顧録」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、糸川耀史写真展「回顧録」関連イベント	○	主
	5月20日	米倉 豪志氏・田中均・肥後 崇	中之島芸術センター・ELSIセンター共創企画「アート×ELSIを考える vol.3」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○	主
	5月26日	山崎達哉「『FUNKY DAYS LIVE!!』DAY2」	糸川耀史写真展「回顧録」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、糸川耀史写真展「回顧録」関連イベント	○	主
	6月1日	山崎達哉「『FUNKY DAYS LIVE!!』DAY3」	糸川耀史写真展「回顧録」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、糸川耀史写真展「回顧録」関連イベント	○	主

6月8日	山崎達哉「東京ダンシング!アフリカ」上映会	糸川耀史写真展「回顧録」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、糸川耀史写真展「回顧録」関連イベント	○	主
7月2日～ 8月4日	郡司ベギオ幸夫、松本直樹、中村恭子、《風景の肉体》シリーズほか5点	天然表現「投鑑するアート」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、出品	○	主
7月6日	檜皮一彦、伊東信宏、永田靖、渡辺浩司、橋爪節也、岡田裕成、高安啓介、古後奈緒子、鈴木聖子、伊藤謙、横田洋、鄭実香、山崎達哉「オープニング・セミナー」	統括セッション、大阪大学豊中キャンパス	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
7月20日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「AR」オリエンテーション・グループワーク	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
7月21日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「アートマネジメント基礎・グループワーク」	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
8月3日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、レクチャー「アートとアクセシビリティ」	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
8月4日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、レクチャー「合理的配慮について」	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
8月5日	肥後 実・吉村 汐七	ELSIセンター研究会「アートELSIを考える—AIと音楽をめぐる人系研究の国際的動向」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会員（イベント共催・参加）	○	主
8月24日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、レクチャー「アートマネジメントとは何か?」	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
8月28日	山崎達哉、東大阪学講座、工場見学	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
8月31日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、企画相談会・グループワーク	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月5日	橋爪節也、山崎達哉、「中之島周遊」クルーズ	《場所のナラティブ》「都市のアルケオロジー『中之島デリバティブIII』」B、乗船ツアー（大阪市内）	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月7日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉「企画プレゼンテーション」	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月15日	ちんどん通信社、山崎達哉、ちんどん通信社による宣伝のデモンストラーション	《日常のポイエティック》「街との対話」、大阪大学中之島センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月15日	山崎達哉、紙芝居作成ワークショップ	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、大阪大学中之島センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月17日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、企画相談会・グループワーク	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
2024年 9月21日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、企画相談会・グループワーク	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
9月28日～ 9月29日	林慎一郎、永田靖他「中之島デリバティブIII」	「中之島デリバティブIII」、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、レクチャー	○	主
10月5日	檜皮一彦、鄭実香、山崎達哉、企画相談会・グループワーク	《臨床のアート》「アクセシビリティ・リサーチ・ジャム」、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
10月10日	ちんどん通信社、山崎達哉、ちんどん通信社による宣伝	《日常のポイエティック》「街との対話」、大阪市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
10月20日	山崎達哉、紙芝居作成ワークショップ	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、大阪大学中之島センター	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
10月26日	ロバート・キャンベル、鷺田清一、飯倉洋一、門脇むつみ、懐徳堂創立300周年記念シンポジウム「大阪文化の過去・現在・未来—懐徳堂から大阪大学へ—」	懐徳堂創立300周年記念シンポジウム「大阪文化の過去・現在・未来—懐徳堂から大阪大学へ—」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	シンポジウム司会	○	*3
*3…主催：大阪大学文学部、大阪大学大学院人文学研究科、共催：一般財団法人懐徳堂記念会、大阪大学21世紀懐徳堂、大阪大学文学部同窓会（特文会）、大阪大学文学会、大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合芸術博物館、大阪大学通称記念センター、大阪大学アーカイブズ）、大阪大学中之島芸術センター、懐徳堂研究センター					
10月26日～ 30日		大阪大学総合芸術博物館第26回企画展「懐徳堂創立300周年記念展覧会 懐徳堂って知ってのは？—大阪大学が受け継ぐにわ町人の学問所—、大阪大学中之島芸術センター—展示室」	企画、展示	○	*4
*4…主催：大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合芸術博物館、大阪大学通称記念センター、大阪大学アーカイブズ）、一般財団法人懐徳堂記念会、共催：大阪大学文学部、大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂、大阪大学中之島芸術センター、懐徳堂研究センター					
11月4日	神野知恵、山崎達哉、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」内覧会、阿波木偶箱まわし実演	展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」関連イベント	○	主
11月5日～ 12月21日	神野知恵、山崎達哉、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」	展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主
11月8日	山崎達哉「ダンボール紙芝居上演「こーばへ行く!」見学」	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、マツダ紙工業、大阪	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の「こーばへ行く!2024」の一環	○	主
11月9日	山崎達哉、「こーばへ行く!」見学	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
11月15日	山崎達哉、「こーばへ行く!」見学	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
11月16日	山崎達哉、「こーばへ行く!」見学	《日常のポイエティック》「町工場アートの可能性を探る」、東大阪市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
11月19日	ちんどん通信社、山崎達哉、ちんどん通信社による宣伝	《日常のポイエティック》「街との対話」、大阪市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主
11月23日	葛野次雄、藤野知明、本宮水、高橋繁行、山崎達哉、映画『アイヌリ2019埋葬トエベッコタン』上映&トーク	アイヌのお葬式 映画『アイヌリ2019埋葬トエベッコタン』上映&トーク、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○	主
12月6日	神野知恵、山崎達哉、ギャラリートーク「伊勢大神楽はどんなくらしをしているの?」	展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」関連イベント	○	主
12月7日	神野知恵、山崎達哉、伊勢大神楽実演「神楽が大阪中之島にやってくる!」	展覧会「旅するカミサマ、迎える人々～伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」関連イベント	○	主
12月8日	ちんどん通信社、山崎達哉、ちんどん通信社による宣伝	《日常のポイエティック》「街との対話」、茨木市内	企画主催、「中之島に隣を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○	主

	12月13日～15日	楡皮一彦・鄭実香・山崎達哉・展示・ワークショップ「さあクル おにクル とらいアル」	展示・ワークショップ「さあクル おにクル とらいアル」、茨木市文化・子育て複合施設 おにクル、大阪	企画主催、「中之島に聴を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○ 主
	12月14日～15日	高安美帆、岸本昌也、山崎達哉「kagurabu 中之島・神楽remix「まつりのにわ」」	「kagurabu 中之島・神楽remix「まつりのにわ」」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、「基盤プロジェクトII」の一環	○ 主
	12月17日	園田郁、山崎達哉、イリーナ・カスティリヤンチャンカ「アートを通じた社会との共創—中之島芸術センターの活用」	新任教員研修プログラム、大阪大学中之島芸術センター、大阪	イベントの企画共催	○ 主
	12月21日	神野知恵、山崎達哉、伊勢大神楽映像上映会	展覧会「旅するカミサマ、迎える人々〜伊勢大神楽と阿波の木偶まわしにみる家廻り芸能の現在」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、展覧会「旅するカミサマ、迎える人々」関連イベント	○ 主
2025年	1月22日	橋爪節也、山崎達哉、「水の回廊」クルーズ	(場所のナラティブ)「都市のアルケオロジ—中之島デリバティブIII」B、乗船ツアー (大阪市内)	企画主催、「中之島に聴を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○ 主
	2月3日～9日	堀田充規、山口浩章、永田靖他「田中照三再発見—上演と展示」	「田中照三再発見—上演と展示」、大阪大学中之島芸術センター	企画立案、レクチャー	○ 主
	2月～3月		企画展覧会「小屋掛けの人形芝居 日本とアジア」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○ 主
	2月12日	西条みつとし、「モノを創っていく」	「バーチャルリアリティと演劇：仮設性の問題に向けて」特別講演、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○ 主
	2月14日～15日	伊東信宏、古後奈緒子「ペドロ親方の人形芝居」ほか	人間を脱出したモノたちへ、兵庫県立尼崎青少年創造劇場@1 碩シアター中ホール	制作統括	○ 主
	2月15日	筒井潤、「劇場⇄密室⇄イメージ」	「バーチャルリアリティと演劇：仮設性の問題に向けて」特別講演、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○ 主
	2月23日	「シンタ妃 大地への帰還」	「シンタ妃 大地への帰還」、中之島芸術センター	上演会	○ 主
	2月28日	菊池 遼(画家)、井出 和希	ELSIセンター研究会「絵画制作における『意図』と『創造性』」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会員 (イベント共催・参加)	○ *5
				*5…大阪大学 社会技術共創研究センター (ELSIセンター)、大阪大学 中之島芸術センター	
	3月1日	楡皮一彦、伊東信宏、永田靖、渡辺浩司、橋爪節也、岡田裕成、高安啓介、古後奈緒子、鈴木聖子、伊藤謙、横田洋、鄭実香、山崎達哉、「クロージング・シンポジウム」	統括セッション、大阪大学中之島芸術センター	企画主催、「中之島に聴を放つIII—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」の一環	○ 主
	3月	園田郁・山下一夫・福岡まどか	仮設の人形芝居 交差する娯楽と民俗、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○ 主
	3月	庄内出羽人形芝居ほか、東北の手違い人形 庄内出羽人形芝居公演	東北の手違い人形 庄内出羽人形芝居公演、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○ 主
	3月8日	David Kostak, Dominic Chamayou-Douglas, Krzysztof Garbaczewski, Iryna Kastylanchanka, Thomas Rodrigues Crespo、第3セッション：「AIを活用した演劇の創作と上演」国際セッションのディスカッション	第2回「人工知能時代の芸術：創造性・影響・課題」シンポジウム、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、イベントの開催	○ 主
	3月10日	坂本桃子、山崎達哉「食べて記って—熊本県八代市坂本町のお祭り」と食べ物」	トークイベント「食べて記って—熊本県八代市坂本町のお祭り」と食べ物」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催、「基盤プロジェクトII」の一環	○ 主
	3月22日	ちんどん通信社、林幸治郎、仮屋崎郁子、園田郁、山崎達哉「近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸」	(実演付きトークイベント)「近代大阪の「ちんどん屋」と語り芸」、大阪大学中之島芸術センター、大阪	企画主催	○ 主
	9月7日	井上章一(国際日本文化研究センター所長)、橋爪節也(大阪大学名誉教授)、船越幹央(大阪大学ミュージアム・リンクス教授)、波瀬山祥子(大阪大学総合学術博物館研究支援推進員)ほか、「大阪と京都の二都物語」『浪花百景・未来景』『まち人と歩く』など5題	シンポジウム「大阪のって何? 浪花百景・未来景」、大阪大学中之島芸術センター	主催・大阪大学総合学術博物館、大阪市コミュニティ協会	○ 主
2023年	5月～6月	中村恭子、《反古墳》シリーズほか10点	第5回メタモルフォシス展、ギャラリー 82、長野	招待作家	
	8月26日		2023年度近現代演劇研究会8月例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会事務局 (イベントの開催)	
	12月23日		2023年度近現代演劇研究会12月例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会事務局 (イベントの開催)	
2024年	2月19日～3月9日	中村恭子、《反古墳》シリーズほか10点	第5回メタモルフォシス展、ギャラリー 82、長野	招待作家	
	2月7～13日	中村恭子、《御柱図絵屏風》シリーズほか20点	もんぜん千年祭2024、善光寺大勸進紫雲閣、長野	招待作家	
	3月31日		2023年度近現代演劇研究会3月例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会事務局 (イベントの開催)	
	7月19日		「ELSI Forum with mercari R4D「ELSIセンター×メルカリ：企業と進める人系研究の今」、大阪大学南館階一郎ホール	参加	
	8月11日		2024年度近現代演劇研究会8月例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会事務局 (イベントの開催)	
	9月25日	永田靖・イリーナ・カスティリヤンチャンカ・浄るリシアター	2024年度77回SIHDA(国際古代法史学会)(レセプション・公演) 浄るリシアター、浄るリシアター、能勢	イベントの司会者・ワークショップ英語で通訳	
	10月13日	高安美帆、ステイヴ エトウ、友井隆之、山崎達哉、ふうりん劇場「さんぼ編」「パーティー編」	ふうりん劇場、志紀駅付近、TOMO! R&D、大阪	企画主催、「まちかどライブクリエイション2024(八尾市)」の協力	
	10月27日	高安美帆、ステイヴ エトウ、友井隆之、岸本昌也、山崎達哉、ふうりん劇場「おでかけ編」	ふうりん劇場、平井製作所、大阪	企画主催、「ひらいマルシェ」の協力	
	11月	園田郁、アファートーク「にわか」実演の舞台裏と継承の取り組み	にわか実演披露、すばるホール		
	11月18日	クライヴ・ブラウン、柴田俊幸、伊東信宏(司会)	クライヴ・ブラウン博士による講演とワークショップ、中之島芸術センター	大阪での企画協力	
	11月22日	中原佑介(司会、翻訳)	映画上映会：『妨げられることなく—“Undisturbed”』(2023年)、中之島芸術センター	企画協力(科学研究費基盤C「世界音楽システム」から東欧音楽史を検証する：リグティ&クルターゴの作品を中心に)(T24K034460)	
	12月8日	鷲野彰子、Yucong Jiang (University of Richmond, Computer Science)、印藤海翔、山本邦雄、尾下真樹(九州工業大学 メディア情報学)、中村栄太(九州大学 音楽情報処理)、Craig Stuart Sapp (Stanford University, Computational Musicology)、上田泰史(京都大学 音楽学) など、(コメント)	シンポジウム「演奏を読む：演奏分析ツールと演奏分析によるテンポ・ルバートの実践分析」、中之島芸術センター	大阪での企画協力(主催は科学研究費基盤研究(B)「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏分析によるルバート楽法分析」[2022～2026年度、研究代表者：鷲野彰子])	
	12月21日		2024年度近現代演劇研究会12月例会、大阪大学中之島芸術センター、大阪	研究会事務局 (イベントの開催)	
2025年	2月5～11日	中村恭子、《風景の肉体》シリーズほか15点	もんぜん千年祭2025、善光寺外苑西之門よしのや(殺蔵)、長野	招待作家	
	3月20日	旧真田山陸軍墓地芸術プロジェクト、山崎達哉「上町台地にある旧真田山陸軍墓地と積み重なったまちの記憶をツバメと旅する春」TSUBAME HOUSE HOSTEL(玉造つばめの家)、大阪	「上町台地にある旧真田山陸軍墓地と積み重なったまちの記憶をツバメと旅する春」TSUBAME HOUSE HOSTEL(玉造つばめの家)、大阪	企画主催 https://2025bochistage.wordpress.com/	

その他業績

*1 … 中之島芸術センター関連の有無(=○)
*2 … 中之島芸術センター主催(=主)、共同主催(=同)、共催(=共)、協力(=協)

年月日	発表者・タイトル	イベント名・開催地	役職名	その他特筆すべき事項	*1	*2
2016年5月～現在	公益財団法人吹田市文化振興事業団、永田靖		理事			
2020年4月～2024年8月	大阪府市文化振興会議、永田靖		委員長			
2021年～現在	兵庫県尼崎青少年創造劇場ピッコロ劇団企画運営委員会、永田靖					
2023年	《風景の肉体——湿地の王》現実界、絹本彩色、一幅、127.8×51cm、中村恭子			作品		
2023年	作品《トランジ墓式同居》2022提供：郡司ベギオ幸夫『創造性はどこからやってくるか：天然表現の世界』2023.8.7、ちくま新書、中村恭子					
2023年9月～2024年11月	京都賞専門員会(思想芸術部門)・審査委員会(思想芸術部門)、永田靖		専門委員会委員長、審査委員会委員			
2024年	《風景の肉体——レッド・ログ》想像界、絹本彩色、一幅、127.8×51cm、中村恭子			作品		
2024年	《風景の肉体——淀泊する〈その世〉》象徴界、絹本彩色、一幅、127.8×51cm、中村恭子			作品		
2024年	作品《トランジ墓式同居》2022提供：福島知己編『シャルル・フーリエの新世界』、水声社、2024.7(自著装丁)、中村恭子					
2024年	Theatre Almanac『draft: театр в изгнании и эмиграции 2023-2024』第2号、イリーナ・カスティリヤンチャンカ	European Humanities University, Vilnius, Lithuania	国際編集委員会	編集活動		
2024年12月	『神話学研究』第3号発刊、西井英	ギリシア・ローマ神話学研究会	編集代表	学術誌編集・発刊		
2025年3月	ラジオにわかおこし、園田郁・江南泰佐			作品		

競争的資金の獲得状況

科研費

課題タイトル	研究者(代表/分担)	種別	研究番号	研究期間	獲得金額の総額(間接経費含)	その他特筆すべき事項
東欧の音楽文化に関する民俗学的調査と編曲作品研究	伊東 信宏(代表)	国際共同研究強化(B)	18KK0002	2018年度～2024年度	17,160千円	
東南アジアの現代芸術におけるラーマヤナの多層的意味に関する研究	福岡 まどか(代表)	基盤研究(B)	19H01208	2019年度～2024年度	15,990千円	
近代日本の大衆演芸ジャンルにおける音楽と芝居の交叉とその変容—節劇・俄・音曲漫才	園田 郁(代表)	基盤研究(C)	21K00113	2021年度～2023年度	3,640千円	
対話的・協働的芸術実践の美的価値についての基礎的研究	田中 均(代表)	基盤研究(C)	22K00142	2022年度～2024年度	1,560千円	
マンザイの代数構造を通して理解する笑いの経緯	中村 恭子(分担)	基盤研究(C)	22K12231	2022年度～2024年度	4,290千円	代表は郡司幸夫(早稲田大学)
アジア演劇の越境重層的研究と実践リサーチ型世代ネットワークの構築	永田 靖(代表)	基盤研究(B)	22H00614	2022年度～2025年度	15,990千円	
盲僧琵琶の語り物伝承と『平家物語』成立過程に関する総合的研究	伊東 信宏(分担)	基盤研究(C)	23K00329	2023年度～2025年度	4,680千円	代表は塩山高菜(愛知淑徳大学)
20世紀前半の歴史的演奏とピアノ・ロールの演奏解析によるルバート奏法分析	伊東 信宏(分担)	基盤研究(B)	23K21901	2023年度～2026年度	14,560千円	代表は鷲野彰子(福岡県立大学)
無事の死を悼むジレンマの芸術的転回	中村 恭子(代表)	基盤研究(C)	23K00237	2023年度～2026年度	4,810千円	
国立美術館における障害者等の芸術に対するキュレーションの最適化	田中 均(分担)	基盤研究(B)	23K25290	2023年度～2026年度	18,330千円	代表は中川真(大阪公立大学)
「世界音楽システム」から東欧音楽史を検証する：リゲティとクルターグの作品を中心に	伊東 信宏(代表)	基盤研究(C)	24K03446	2024年度～2027年度	4,550千円	

科研費以外

課題タイトル	研究者(代表/分担)	種別	研究番号	研究期間	獲得金額の総額(間接経費含)	その他特筆すべき事項
東南アジアの現代アート パフォーマンスの実践を対象とする予備的考察	福岡 まどか(代表)	京都大学 東南アジア地域研究 研究所 GCR		2023年度～2024年度	1,600千円	
南河内の「にわか」を軸とした芸能文化：調査・普及活動を通じた多世代間の交流と活性化	園田 郁(代表)	公益財団法人 芳泉文化財団 地域文化活性化部門		2024年度～2024年度	1,000千円	
中之島に聴を放つII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム	永田 靖(代表)	令和5年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」		2023年度	12,600千円	
ちんどん屋と〇〇(まるまる)——芸能のタイムカプセルとしてのちんどん屋の魅力を探る——	山崎 達哉(代表)	公益財団法人 芳泉文化財団 地域文化活性化部門		2023年度	1,000千円	
中之島に聴を放つIII——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム	永田 靖(代表)	令和6年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」		2024年度	25,650千円	
ダンサー・イン・レジデンス八尾	山崎 達哉(代表)	公益財団法人 芳泉文化財団 地域文化活性化部門		2024年度	1,000千円	

中之島芸術センター関連授業

授業タイトル	担当教員	開講時期	講座種別	開催場所	その他特筆すべき事項
実践芸術論演習：〈構想〉と〈解説〉の相互運動	中村 恭子	2024年度春・夏	文学部・人文科学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	講義・演習
実践芸術論演習：表現と創造性	中村 恭子	2023・2024年度秋・冬	文学部・人文科学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	講義
アーツ・プラクシス演習：天然表現を学びます	中村 恭子	2024年度春・夏	文学部・人文科学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	講義・演習
アーツ・プラクシス演習：日本美術の写実表現	中村 恭子	2023・2024年度秋・冬	文学部・人文科学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	演習
社会人講座「中之島に聴を放つ：臨界のアートへ」	中村 恭子	2023年度夏	中之島に聴を放つ	中之島芸術センター	講義
実践音楽学演習	伊東 信宏、福岡 まどか	2024年度秋・冬	音楽学	中之島芸術センター	演習・講義

実践音楽学講義	伊東 信宏	2024年度春・夏	高度副プログラム「アート・ファンリテーション」	中之島芸術センター	講義
芸術環境論演習II-1:地域劇場その展望と課題	永田 靖	2023年度春・夏	副専攻プログラム、文学部・人文学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	演習
アーツ・プラクティス論演習:舞台照明の創造	永田 靖	2023年度秋・冬	副専攻プログラム、文学部・人文学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	センター演劇公演『ヤスキチ・ムラカミ一遠いレンズを通して』との連携授業
芸術環境論演習II-1:リサーチとしてのパフォーマンス	永田 靖	2024年度春・夏	副専攻プログラム、文学部・人文学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	センター演劇公演『中之島デリバティブIII』との連携授業
アーツ・プラクティス論演習:舞台美術の創造	永田 靖	2024年度秋・冬	副専攻プログラム、文学部・人文学研究科博士前期課程・博士後期課程	中之島芸術センター	センター演劇公演『田中照三再発見/乗務員日誌』との連携授業
美学演習II-2:現代美学を英語で読む	田中 均	2023年度秋・冬	高度副プログラム「アート・ファンリテーション」	オンライン	演習
美学演習II-2:美学の入門書を読む	田中 均	2024年度秋・冬	高度副プログラム「アート・ファンリテーション」	オンライン	演習
グローバル化と文化特講II	福岡 まどか	夏期集中講義	大阪大学大学院高度副プログラム	中之島芸術センター	講義・演習

外部との関わり

寄託

No.	資料名	数量	期間	寄託者
1	不二工芸絵巻板データ	USBファイル他	2023年10月1日～2026年9月30日	貴田 奈津子
2	田中照三舞台美術スクラップ・デザイン資料集	スクラップ・デザイン資料集 約225冊	2024年10月1日～2027年9月30日	堀田 充規
3	「盲僧琵琶の語り物・兵藤コレクション」The Hyodo Collection of Moso-Biwa Oral Narratives	盲僧語り物ビデオ映像デジタルデータ(95点)、およびそのデジタルデータ	2024年10月1日～2027年9月30日	兵藤 裕己

学術協定

No.	協定先	協定の種類	締結日	コンタクトパーソン
1	韓国藝術総合学校演劇院(韓国、ソウル)	部局間協定	月曜日, 5月14, 2018	永田 靖
2	上海戯劇学院(中国、上海)	部局間協定	金曜日, 7月19, 2024	永田 靖

メディア掲載・紹介(テレビ・ラジオ)

No.	記事タイトルなど	記載メディア	年月
1	紹介:「中之島芸術センター開館記念 中村恭子日本画作品展「風景の肉体」	NHKラジオ「らじる・らじる」大阪放送局	2023年9月
2	〈人材急募!ハロー絶滅危惧ワーク〉絶滅寸前!ちんどん屋さんに1日密着	MBS せやねん!	2024年4月6日
3	2023年4月6日情報まるしゅみるでるで 阿波木偶の世界2「旅するカミサマ、迎える人々」	国府町CATV	2025年1月24日

メディア掲載・紹介(新聞、雑誌、書籍)

No.	記事タイトルなど	記者、書誌名、巻・号、ページ番号	年月	外部リンク
1	「想定外」を受け容れてアートに	神戸新聞、小林伸哉、神戸新聞、文化面	7月25日2024年	https://www.kobe-np.co.jp/news/culture/202407/0017924661.shtml
2	天然表現「投鑑するアート」	一般社団法人地域創造、地域創地域創造レター、8月号No.351、p.10	7月25日2024年	https://www.jafra.or.jp/fs/6/9/4/1/2/_/letter2024-8.pdf
3	展覧会紹介「天然表現「投鑑するアート」	瓦版や、瓦版や(地域新聞)、7月号No.356	7月21日2024年	
4	中之島歩き物語共有 観客参加型の演劇	毎日新聞社、関雄輔、毎日新聞	10月11日2023年	https://mainichi.jp/articles/20231011/ddl/k27/040/252000c
5	関西演劇界この1年 未来見つめる作品に光	毎日新聞社、関雄輔、毎日新聞	12月18日2023年	https://mainichi.jp/articles/20231218/dde/018/200/006000c
6	浮かぶ日系移民の姿 明治期豪で活躍 村上安吉資料で迫る	毎日新聞社、関雄輔、毎日新聞	1月12日2024年	https://mainichi.jp/search?q=金森マユ&op=and&da=all&la=ja-JP
7	県出身の実業家・村上安吉 豪移民の先駆者、業績に光	毎日新聞社、毎日新聞和歌山版	1月16日2024年	https://mainichi.jp/articles/20240116/ddl/k30/040/210000c
8	スキューバの先駆者、実は豪州の日本人移民だった 悲劇の生涯に光	朝日新聞社、永井靖二、朝日新聞デジタル	1月12日2024年	https://www.asahi.com/articles/ASRDC43WNRD8PLZU009.html?ref=pc_ss_date_article
9	潜水の安全 悲劇の先駆者 移民先の豪で仕組み開発 村上安吉の生涯に光	朝日新聞社、永井靖二、朝日新聞	1月13日2024年	https://www.asahi.com/articles/DA3515815939.html?ref=pc_ss_date_article
10	「スキューバの先駆け」豪州で開発した 無名の日系移民を演劇で紹介	朝日新聞社、永井靖二、朝日新聞デジタル	1月25日2024年	https://www.asahi.com/articles/ASS155DNMS1QPLZU00P.html?ref=pc_ss_date_article
11	ちんどん屋 色あせぬ魅力	読売新聞、7面	12月16日2023年	
12	ちんどん屋のルーツは大阪 時代の姿伝える企画展 大阪大学総合学術博物館で開催	産経新聞、大阪版	1月9日2024年	https://www.sankei.com/article/20240110-WH76MYXAMROBRBDBXRPPFDWVYM/
13	見た目が派手なだけじゃない! 芸と気配りの宣伝業「ちんどん屋」に大阪大学総合学術博物館で触れる	株式会社 hotozero、柳智子、ほとんど0円大学	2月6日2024年	https://hotozero.com/enjoyment/learning-report/osaka-u_chindon/

受賞歴

No.	受賞課題(作品)タイトル	受賞名(機関)	年月	著者
1	中之島デリバティブII	関西えんげき大賞優秀作品賞(関西えんげき大賞)	2024年2月	林慎一郎、永田靖

学外機関との社学連携

No.	事業・協定名（協定・連携機関）	概要・目的など	締結年月日	発表者
1	LXXXVIIe Session de la Societe International Fernand De Visscher pour l'Historie des Droits de l'Antiquite（能勢浄るリシアター）	能勢浄るリシアターでのレセプションを企画開催して、大阪大学の学術的発信を行うことで地域自治体の活性化の一助とする。	9月25日2024年	Yasushi Nagata
2	「中之島に醜を放つⅢ」、「こーばへ行く！2024」（マツダ紙工業株式会社）	ダンボールによる紙芝居舞台、紙芝居の製作および上演。製作した紙芝居の一部は、担当講師により、東大阪市の図書館に寄贈。	9月30日2024年	マツダ紙工業、柿本香苗、乾理加、「中之島に醜を放つⅢ」受講生（上演のみ）、山崎達哉

文化事業との社学連携

No.	事業・協定名（協定・連携機関）	概要・目的など	締結年月日	発表者
1	田中照三再発見—上演と展示（日本舞台美術協会／大阪芸術大学／京都芸術大学）	戦後関西の舞台美術を先導した田中照三の仕事を原資料・デザイン画をもとに、上演と展示で再構成する。そのことで日本の戦後舞台美術の新しい局面を明らかにする。	2025年2月3日～2月9日	堀田充規、山口浩章、永田靖他
2	大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映会 前衛演劇の探究I（慶應義塾大学アートセンター）	慶應義塾大学アートセンターの映像資料を活用して、研究上映会を行う。両大学の研究を公開して社会貢献を行う。	2025年2月3日～2月9日	小菅隼人、石本華江、永田靖
3	ヤスキチ・ムラカミ 遠いレンズを通して（ムラカミ・ファミリー・アーカイブ／三瀬家・山本家・ノリーン・ジョーンズ・アーカイブ／オーストラリア大使館）	ムラカミ・ヤスキチの生涯と写真を題材にした劇上演と展示を行うことで、オーストラリアへの日系移民の歴史と生活を明らかにする。	2023年12月12日～1月21日	金森マユ、佐和田敬司、山口浩章、永田靖

社会人や高校生などを対象とした人材育成事業

No.	事業・協定名・協定・連携機関、概要・目的など	概要・目的など	締結年月日	発表者
1	大学における文化芸術推進事業「中之島に醜を放つ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」II&III — あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、浄るリシアター、公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メイシアター）、豊中市都市活力部魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、公益財団法人 箕面市メイプル文化財団	大阪大学中之島芸術センターが中心になり、大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館と共同してアート人材育成プログラムを実施することで、今日のアート人材に求められる、多様な芸術ジャンルに精通し、現代文化の複雑な諸課題に柔軟に対応できる実践力を育成する。	2023年4月～ 2025年3月	伊東信宏、永田靖、渡辺浩司、橋爪節也、岡田裕成、高安啓介、古後奈緒子、鈴木聖子、伊藤謙、横田洋、鄭実香、山崎達哉

構成員一覧

2023

専任教職員

所属部局	職名	氏名	備考
1 中之島芸術センター	特任教授(常勤)	永田 靖	副センター長 芸術社会共創部門長
2 中之島芸術センター	准教授	中村 恭子	芸術共創研究部門
3 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	山崎 達哉	芸術社会共創部門
4 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	園田 郁	芸術共創教育部門
5 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	Kastyliachanka Iryna	芸術共創研究部門
6 中之島芸術センター	特任研究員	鄭 実香	文化庁事業担当

兼任教員・招聘教員

所属部局	職名	氏名	備考
1 人文学研究科 芸術学専攻	教授	伊東 信宏	センター長 芸術共創教育部門長
2 人文学研究科 芸術学専攻	教授	岡田 裕成	
3 人文学研究科 芸術学専攻	教授	門脇 むつみ	
4 人文学研究科 芸術学専攻	教授	桑木野 幸司	
5 人文学研究科 芸術学専攻	教授	高安 啓介	
6 人文学研究科 芸術学専攻	教授	藤岡 稔	
7 人文学研究科 芸術学専攻	教授	輪島 裕介	
8 人文学研究科 芸術学専攻	教授	渡辺 浩司	
9 人文学研究科 人文学専攻	教授	三谷 研爾	
10 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	東 志保	
11 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	古後 奈緒子	
12 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	田中 均	芸術共創研究部門長
13 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	中尾 薫	
14 人文学研究科 日本学専攻	准教授	中嶋 泉	
15 人文学研究科 芸術学専攻	講師	西井 奨	
16 人文学研究科 芸術学専攻	助教	河内 華子	
17 人文学研究科 芸術学専攻	助教	鈴木 聖子	
18 人間科学研究科	教授	福岡 まどか	
19 理学研究科	教授	寺田 健太郎	
20 医学系研究科	准教授	内藤 智之	
21 工学研究科	教授	加賀 有津子	
22 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	准教授	横田 洋	
23 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	講師	伊藤 謙	
24 社会ソリューションイニシアティブ	教授	堂目 卓生	
25 大阪樟蔭女子大学	教授(招聘教員)	山崎 晃男	

2024

専任教職員

所属部局	職名	氏名	備考
1 中之島芸術センター	特任教授(常勤)	永田 靖	副センター長 芸術社会共創部門長
2 中之島芸術センター	准教授	中村 恭子	芸術共創研究部門
3 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	山崎 達哉	芸術社会共創部門
4 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	園田 郁	芸術共創教育部門
5 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	Kastyliachanka Iryna	芸術共創研究部門
6 中之島芸術センター	特任研究員	鄭 実香	文化庁事業担当

兼任教員・招聘教員

所属部局	職名	氏名	備考
1 人文学研究科 芸術学専攻	教授	池上 裕子	
2 人文学研究科 芸術学専攻	教授	伊東 信宏	センター長
3 人文学研究科 芸術学専攻	教授	岡田 裕成	
4 人文学研究科 芸術学専攻	教授	門脇 むつみ	
5 人文学研究科 芸術学専攻	教授	桑木野 幸司	
6 人文学研究科 芸術学専攻	教授	高安 啓介	
7 人文学研究科 芸術学専攻	教授	田中 均	芸術共創研究部門長
8 人文学研究科 芸術学専攻	教授	藤岡 稔	
9 人文学研究科 芸術学専攻	教授	輪島 裕介	
10 人文学研究科 芸術学専攻	教授	渡辺 浩司	
11 人文学研究科 人文学専攻	教授	三谷 研爾	
12 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	東 志保	
13 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	古後 奈緒子	
14 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	鈴木 聖子	芸術共創教育部門長
15 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	中尾 薫	
16 人文学研究科 日本学専攻	准教授	中嶋 泉	
17 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	西井 奨	

18 人文学研究科 芸術学専攻	講師	伊藤 肇美	
19 人文学研究科 芸術学専攻	助教	里中 俊介	
20 人文学研究科 芸術学専攻	助教	杉本 亘	
21 人間科学研究科	教授	福岡 まどか	
22 理学研究科	教授	寺田 健太郎	
23 医学系研究科	准教授	内藤 智之	
24 工学研究科	教授	加賀 有津子	
25 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	准教授	横田 洋	
26 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	講師	伊藤 謙	
27 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	教授	船越 幹央	
28 社会ソリューションイニシアティブ	教授	堂目 卓生	
29 21世紀横徳堂	准教授	木ノ下 智恵子	
30 大阪樟蔭女子大学	教授(招聘教員)	山崎 晃男	

2025

専任教職員

所属部局	職名	氏名	備考
1 中之島芸術センター	特任教授(常勤)	永田 靖	芸術社会共創部門長
2 中之島芸術センター	准教授	中村 恭子	芸術共創研究部門長
3 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	園田 郁	芸術共創教育部門
4 中之島芸術センター	特任研究員(常勤)	Kastyliachanka Iryna	芸術共創研究部門
5 中之島芸術センター	特任研究員	鄭 実香	日本芸術文化振興会事業担当

兼任教員・招聘教員

所属部局	職名	氏名	備考
1 基礎工学研究科	教授	河原 源太	センター長
2 人文学研究科 芸術学専攻	教授	池上 裕子	
3 人文学研究科 芸術学専攻	教授	伊東 信宏	副センター長
4 人文学研究科 芸術学専攻	教授	岡田 裕成	
5 人文学研究科 芸術学専攻	教授	門脇 むつみ	
6 人文学研究科 芸術学専攻	教授	桑木野 幸司	
7 人文学研究科 芸術学専攻	教授	高安 啓介	
8 人文学研究科 芸術学専攻	教授	田中 均	芸術共創教育部門長
9 人文学研究科 芸術学専攻	教授	中尾 薫	
10 人文学研究科 芸術学専攻	教授	藤岡 稔	
11 人文学研究科 芸術学専攻	教授	輪島 裕介	
12 人文学研究科 芸術学専攻	教授	渡辺 浩司	
13 人文学研究科 人文学専攻	教授	三谷 研爾	
14 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	東 志保	
15 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	古後 奈緒子	
16 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	鈴木 聖子	
17 人文学研究科 日本学専攻	准教授	中嶋 泉	
18 人文学研究科 芸術学専攻	准教授	西井 奨	
19 人文学研究科 芸術学専攻	講師	伊藤 肇美	
20 人文学研究科 芸術学専攻	助教	里中 俊介	
21 人文学研究科 芸術学専攻	助教	杉本 亘	
22 人文学研究科 芸術学専攻	助教	福岡 まどか	
23 人間科学研究科	教授	寺田 健太郎	
24 理学研究科	教授	内藤 智之	
25 医学系研究科	准教授	加賀 有津子	
26 工学研究科	教授	船越 幹央	
27 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	教授	船越 幹央	
28 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	准教授	辻野 博文	
29 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	准教授	横田 洋	
30 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	講師	伊藤 謙	
31 ミュージアム・リンクス 総合学術博物館	准教授	松水 和浩	
32 社会ソリューションイニシアティブ	特任教授(常勤)	堂目 卓生	
33 21世紀横徳堂	准教授	木ノ下 智恵子	
34 D3センター(旧サイバー)	教授	浦西 友樹	
35 D3センター(旧サイバー)	准教授	安福 健祐	
36 D3センター(旧サイバー)	准教授	宮武 勇登	
37 D3センター(旧IDS)	教授	長原 一	
38 D3センター(旧IDS)	教授	中島 悠太	
39 OUDX推進室	教授	鈴木 徹	
40 早稲田大学	教授(招聘教員)	郡司ベギオ幸夫	芸術共創研究部門
41 国立台湾師範大学文學院英語学系	教授(招聘教員)	TSU-CHUNG SU	

大阪大学中之島芸術センター

〒530-0005

大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53

3-4階「アートスクエア」内

<https://www.art.osaka-u.ac.jp/>

tel. 06-6444-2139

secretary.art@ml.office.osaka-u.ac.jp

芸術センターへのアクセス

電車によるアクセス：

JR環状線 福島駅 出入口より 徒歩約12分

JR東西線 新福島駅 2出口より 徒歩約9分

阪神本線 福島駅 3出口より 徒歩約7分

京阪電車中之島線 渡辺橋駅 2A出口より 徒歩約5分

大阪メトロ四つ橋線 肥後橋駅 4出口より 徒歩約10分

大阪メトロ御堂筋線 淀屋橋駅 6出口より 徒歩約16分

大阪メトロ御堂筋線 淀屋橋駅 6出口より 徒歩約16分

バスによるアクセス：

大阪シティバス (53系統)

大阪駅前バスターミナル→中之島四丁目 下車 徒歩1分

大阪シティバス (75系統)

大阪駅前バスターミナル→田養橋 下車 徒歩2分

北港バス (中之島ループバス ぷらら)

JR大阪駅西口→大阪中之島美術館前 下車 徒歩2分



大阪大学中之島芸術センター 年報 | 2023-2024

年報編集担当

2025年9月30日 発行

 大阪大学中之島芸術センター

中村燕子筆《熊袋図》紙本彩色、二曲屏風、180×200cm、2012年



大阪大学中之島芸術センター

年報 | 2023-2024

 大阪大学中之島芸術センター